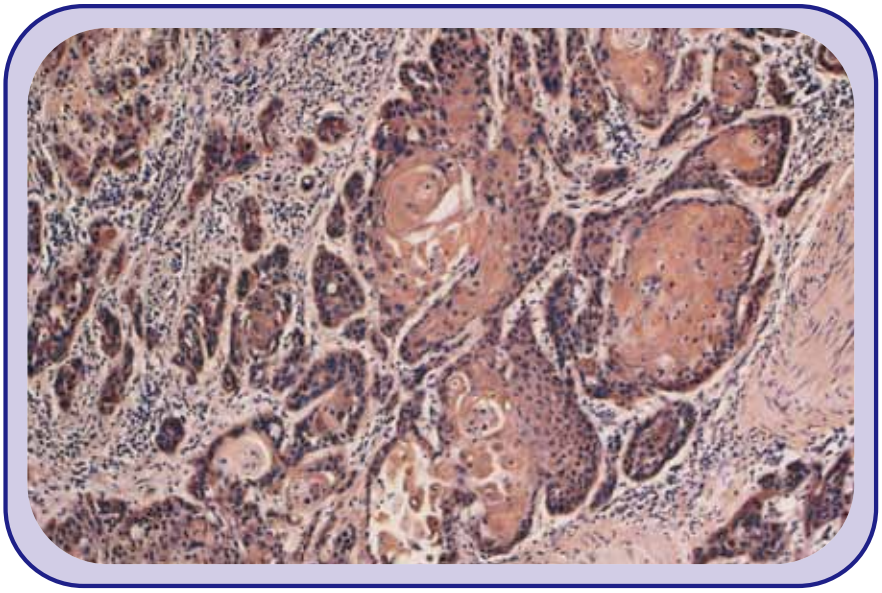
第15号

さくらじま

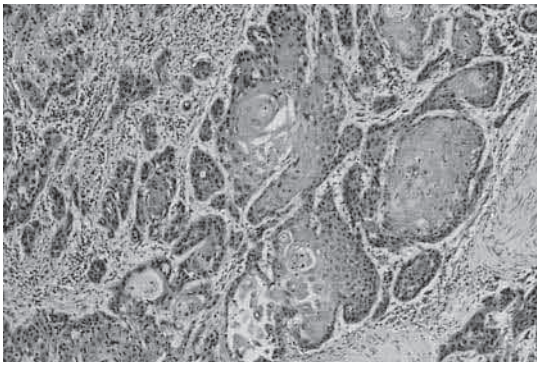
2001



鹿児島大学医学部　耳鼻咽喉科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕



〈抗 MRP1 抗体を用いた扁桃上皮癌の染色〉

MRP1（multidrug resistance protein）は分子量190,000の糖タンパクであり，癌細胞における抗癌剤耐性メカニズムとの関係が指摘されている。

我々の行った頭頸部癌95例を用いた免疫組織化学的検討では，MRP 発現と腫瘍の分化度とに有意な関係（高分子型の腫瘍では MRP 発現が高い）を認めた。

福岩達哉

目　　次

Ⅰ．巻 頭 言……1
Ⅱ．同 門 会……3
Ⅲ．教室来訪者……5
Ⅳ．教室行事……6
　1．共催の講演会……6
　2．桜島フォーラム……9
Ⅴ．同門会報告……10
Ⅵ．地域医療報告……13
　1．巡回診療……13
　2．身体障害者巡回相談……13
　3．学校保健（統計報告）……13
Ⅶ．特殊外来通信……17
　1．アレルギー外来……17
　2．中耳炎外来……20
　3．副鼻腔炎外来……21
　4．頭頸部腫瘍外来……23
Ⅷ．病理集計……24
Ⅸ．各省庁諸研究……26
Ⅹ．業　　績……27
　1．原　著……27
　2．総　説……28
　3．その他……28
　4．国内学会発表……29
　5．国際学会発表……36
　6．学位論文要旨……37
Ⅺ．医局通信……39
　1．新入医局員紹介……39
　2．医局人事……41
　3．学会報告……42
　　①　第10回日本頭頸部外科学会総会……42

② 第12回日本喉頭科学会総会……42
③ 第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 …43
④ 第12回日本アレルギー学会春季臨床大会 …44
⑤ 第101回日本耳鼻咽喉科学会総会 ……44
⑥ 第24回日本頭頸部腫瘍学会,
第21回頭頸部手術手技研究会……45
⑦ 第62回耳鼻咽喉科臨床学会……45
⑧ 第30回日本耳鼻咽喉科感染症研究会,
第24回日本医用エアロゾル研究会……46
⑨ 第13回日本口腔咽頭科学会総会……46
⑩ 第39回日本鼻科学会総会……47
⑪ 第10回日本耳科学会総会……48
⑫ 第52回日本気管食道科学会総会……49
⑬ 第5回アジア鼻科学シンポジウム ……49
⑭ 第18回ヨーロッパ鼻科学会,
第19回国際鼻感染アレルギーシンポジウム …51
⑮ 国際耳鼻咽喉科会議「Nasal Polyposis」 …54
4．関連病院便り……55
① 国立病院九州循環器病センター……55
② 県立大島病院……56
③ 県立北薩病院……57
④ 県民健康プラザ鹿屋医療センター……57
⑤ 鹿児島市立病院……58
⑥ 出水市立病院……60
⑦ 済生会川内病院……61
⑧ かごしま生協病院……61
⑨ 今村病院分院……62
XII. 関連病院住所と診療日案内……64
XIII. 同門会及び教室員名簿……68
編集後記……84

Ⅰ．巻　頭　言

「21世紀に馳せる夢」

黒　野　祐　一

月日の経つのは早いもので，私が鹿児島へ着任して早３年が過ぎました。当初はただ医局の運営に奔走する日々の連続で，自分の夢と現実のギャップに焦りすら覚えることがありました。しかし，この間多くの関係者そして先輩の諸先生方にいろいろと教えを請い，この鹿児島における自分の使命がおぼろげながらに見えてきたように思います。また，今年１月には，同門の先生方のご厚意によって，久保隆一，大山勝両名誉教授，また恩師である茂木五郎大分医科大学副学長をお招きしての３周年祝賀会を開催して頂きました。初代教授の野坂先生が昨年のご不幸によりご臨席いただけなかったことが惜しまれますが，この会で当教室の歴史の重みを再認識するとともに多くの励ましを受け，新たな世紀で夢を求めてチャレンジしてゆく勇気を与えていただきました。

この３年間のわずかな足跡を振り返ってみますと，患者さんのプライバシーを重んじた耳鼻科診療ができるよう，外来を改装し，全ユニットを個室化しました。また，局所所見はすべてデジタル画像で保存し，外来，病棟，医局のどこからでもアクセスし利用できるようになりました。患者さんへの説明のほか臨床研究にも重宝しています。将来的には関連病院そして実地医家の先生方ともインターネットを通じて情報交換できればと考えています。手術用顕微鏡も高性能のものに更新し，その他，聴力検査機器，CO_2レーザー，ストロボスコープなどなど多くの機材を更新あるいは新規購入していただきました。また，研究室も私が専門とする免疫やアレルギーの研究が行えるよう改装し，細胞分離解析装置を始めとする多くの備品を購入することができました。

独立行政法人化，医療改革など大学が置かれる環境はますます厳しくなってきましたが，こうした改装や機器の購入が適ったのは，すべからく同門そして関係各位のご理解の賜物と心より感謝申し上げる次第です。

ハード面の準備を一通り終えたら次は人材の育成です。おそらくこれが長として最も重要かつ困難な仕事であろうと思います。しかし，幸い優秀な若い教室員が毎年入局し，期待以上の働きをしてくれます。鹿児島県にはすでに多くの耳鼻咽喉科専門医の先生方

が日常診療に従事され，一次診療についてはある程度充足されているのではないかと思われます。したがって，県下の耳鼻咽喉科医療をさらに向上させるには，耳科学，鼻科学，頭頸部外科学などそれぞれの分野のスペシャリストを育成していくことが必要と考えます。他県の専門施設で研修させることももちろん大切ですが，今後この鹿児島でも独自にこうしたスペシャリストの育成ができるような医療体制が整えられないかと思案しているところです。

研究面においては，先代の大山先生，そして茂木先生のように一貫した研究テーマを持ち，そして世界に通用する若き優れた研究者が育つことを願っています。

21世紀のスタートラインということもあって夢ばかり膨らみますが，このすべてを現実のものとすべく，私自身さらに努力を重ねる覚悟です。諸先生方の益々のご厚情とご支援をお願い申し上げます。

Ⅱ．同　門　会

21 世 紀 が 始 ま っ た

理事　吉　田　重　弘

2000年を，なんとか，クリアー出来た０才から100才までの人々は，横一線に並んでのスタートであります。何が起こっても不思議ではない世相で，誰が何処まで行けるのかと思うと興味津々であります。

Ｈ13年１月13日，同門会総会が，城山観光ホテルで行われました。今回は黒野教授開講３周年記念で，鹿大名誉教授久保先生にも参席して戴きました。特別講演は，「これからの臨床試験」大分医科大学附属病院長茂木五郎先生，「鼻にみる表情と心」鹿大名誉教授大山先生でありまして，いずれも興味深く，拝聴しました。

平成15年は，黒野教授開講５周年であり，鹿児島大学耳鼻咽喉科学教室主催のアレルギー全国大会が開かれると聞いておりますので，関係皆様の尚一層の御指導，御鞭撻をお願い致します。

さて，昨年度行事の中から印象に残ったものを，拾ってみました。

７月14日，元熊大，鹿大教授の野坂先生が，91才で逝去されました。熊大耳鼻咽喉科同門会主催の葬儀が行われ，多くの献花と参列者がありました。鹿児島関係として，黒野教授より花輪，耳鼻咽喉科同門会，耳鼻咽喉科医会，医専一期生会，熊本県医師会長等から生花の供与があり，皆で先生の遺徳を偲びました。

８月５日，鼻の日にちなんで，鹿児島市ＫＣプラザホールで，市民講座が開かれました。

日本耳鼻咽喉科学会県地方部会の主催で，黒野教授の「アレルギー性鼻炎」小児科今村医師の「家庭で出来るアレルギー対策」についての説明がありました。育児中の母親の関心が高く，質問は活気ある雰囲気で終始し，予想以上の成功でありました。

10月21日，鹿児島県医師会館落成式。

挨拶された日本医師会長坪井栄孝氏は，世界医師会長として，10月からその任に当たられるそうですが，将来の医師会のビジョンを示されました。是非斬新な方向性を打ち出してほしいと思います。

12月３日，鹿児島公害認定審査会。サンロイヤルホテル。

平成８年５月，水俣病問題は全面解決と発表されていますが，地域社会での不安は，尚解消されず，法の下での申請者は，皆無ではありません。その方々に対する配慮に，行政も審査会も更に智恵をしぼる必要があります。

平成13年１月30日，松根助教授講演，出水市鶴丸会館。演題は，「アレルギーの病態とアレルギー性慢性副鼻腔炎」。

詳細な説明がありましたが，その中で，副鼻腔炎治療として，ロシア共和国耳鼻咽喉科医により開発されたYAMIKカテーテルが紹介されましたが，宇宙ステーション，ミールの太平洋着水点の正確度が頭に浮かびました。懇親会では，出水市立病院の関，吉福医師と親睦を深めました。

３月，前鹿児島県耳鼻咽喉科医会長の田原睦郎氏より，FAXを戴きました。72才で耳鼻咽喉科医と決別し，新しい趣味オペラ？に生甲斐を求めるとの事。その決断に対して，エールを送り致します。

３月３日，出水郡医師会准看護学校第36回卒業式。テーマソングとして，「明日があるさ」作曲中村八代。聞いていて，若いとは素晴らしい，是非日本の将来の健全な発展に向かって精進してほしいと思いました。

我々は，混沌たる社会環境の中で，与えられた時間を，如何に生きて行くべきか，そして，地域社会に何が貢献出来るかを常に考えるべきだと思っております。

４月11日朝のＮＨＫインタビューは，全盲で高度難聴の複島智氏でありました。４月より東大助教授に就任との事でしたが，彼の言葉の中に，「バリヤフリーに潜むバリヤを考える」とありました。

Ⅲ．教室来訪者（平成12年１月～12月）

9　月	熊本大学耳鼻咽喉科	湯　本　英　二
9　月	宮崎医科大学耳鼻咽喉科	小　宗　静　男
11　月	島根医科大学耳鼻咽喉科	川　内　秀　之

Ⅳ．教室行事（平成12年１月～12月）

１．共催の講演会

１．第91回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（２月10日）

第８回鹿児島アレルギー懇話会

学術講演：「鼻過敏症の臨床」

増山敬祐　先生（熊本大学医学部耳鼻咽喉科学講座助教授）

「アレルギーにおけるストレスおよび腸内細菌叢の影響」

久保千春　先生（九州大学医学部心身医学講座教授）

「皮膚免疫学－最近の話題」

島田眞路　先生（山梨医科大学皮膚科学講座教授）

２．第92回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（３月16日）

特別講演：「アレルギー性鼻炎の発症機序と治療に関する最近のトピックス」

奥田　稔　先生（日本臨床アレルギー研究所顧問

日本医科大学名誉教授）

３．第93回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（４月13日）

特別講演：「頭頸部癌における化学療法を組み入れた集約的治療の意義と役割」

犬山征夫　先生（北海道大学大学院医学研究科

病態制御学専攻　感覚器病学講座

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野　教授）

５．第25回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに第95回学術講演会（６月18日）

特別講演：「耳管開放症の診断と治療」

小林俊光　先生（長崎大学医学部耳鼻咽喉科教授）

一般演題：「急性副鼻腔炎より波及した頭蓋内膿瘍の１例」

濱崎喜與志，松崎　勉，勝田兼司，内村公一，原田健一，

濱田陸三，松岡英樹

「顔面神経麻痺を合併した小児急性中耳炎の１例」

福岩達哉，鮫島篤史，西元謙吾，黒野祐一

「最近の当科における睡眠時無呼吸症候群の診断と治療」

岩元光明，西園浩文，松根彰志，黒野祐一

「エアバックによる頭部外傷性難聴の１例」

関　大八郎，平瀬博之

「当科における内視鏡下中耳手術」

出口浩二，西園浩文，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一

「当科における膿瘍扁摘の検討」

宮之原郁代，牛飼雅人，福岩達哉，出口浩二，黒野祐一

６．第97回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（９月21日）

特別講演：「アレルギーと上気道炎」

鈴木正志　先生（大分医科大学耳鼻咽喉科教授）

一般演題：「YAMIK療法における貯留液中のマーカーの検討」

宮之原郁代

「アレルギー性副鼻腔炎病態の検討−低酸素と菌体成分LPS−」

黒野祐一

７．第98回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（10月12日）

特別講演：「めまいの診断と治療」

久保　武　先生（大阪大学耳鼻咽喉科教授）

一般演題：「両側半規管瘻孔の一症例」

出口浩二　先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

「当科におけるめまい症例の検討−聴力障害合併例について−」

岩下睦郎　先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

８．第99回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会

第２回上気道アレルギー疾患を考える会（11月９日）

特別講演：「鼻過敏症の外科的治療」

久保伸夫　先生（関西医科大学附属男山病院耳鼻咽喉科）

一般演題：「当院における季節性鼻アレルギーの実態について」

内薗明裕　先生（せんだい耳鼻咽喉科）

「新しい花粉計測器（リアルタイム花粉モニター）の紹介と展望」

上野員義　先生（県立北薩病院耳鼻咽喉科）

9．第100回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会（12月７日）

特別講演：「難治性副鼻腔炎をめぐって－臨床的見地より－

森山　寛　先生（東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科教授）

一般演題：「当科における扁桃細菌叢の検討」

大堀純一郎　先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

「急性中耳炎に対する抗菌剤使用の適否」

牛飼雅人　先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科）

２．第３回「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」

黒野教授の発案で始められた耳鼻咽喉科桜島フォーラムも第３回目を迎え，年末のお忙しい時期にもかかわらず多数の先生方にお集まりいただきました。当日は以下のようなプログラムで行われました。

第３回　「耳鼻咽喉科桜島フォーラム」プログラム

平成12年12月14日（木）　19：00 ～ 20：30

鹿児島大学医学部　鶴陵会館中ホール

Ⅰ．開会の挨拶　　黒野 祐一教授

Ⅱ．症例検討　　（Moderator；黒野 祐一教授）

１．中耳の嚢胞様病変は何か？　　岩元　光明

２．上顎洞の血流に富む腫瘤は何か？　　岩下　睦郎

３．両側反回神経麻痺に対する手術治療　　唐木　敦子

Ⅲ．話題提供　　（Moderator；松根 彰志助教授）

１．粘膜免疫と経鼻ワクチン　　福岩　達哉

２．内視鏡下副鼻腔手術の利点と問題点　　黒野　祐一教授

今回もこれまで同様，前半は手術症例を中心とした臨床症例についてその治療法などについてのディスカッションが行われました。また後半は，当教室で現在行っている研究テーマについて紹介するとともに，黒野教授から内視鏡下副鼻腔手術についての話題提供がありました。今回から，スライドでのプレゼンテーションではなく，プロジェクターをコンピューターに直接つなぎ，動画を多く取り入れた形でのプレゼンテーションに変えました。動画を取り入れることよって，より具体的な形でプレゼンテーション出来たのではないかと思います。本会は，日頃貴重な症例を御紹介いただいている実地医家の先生方から教室に対する御意見を伺う貴重な場として，益々発展させていきたいと考えています。今後も多数の先生方の御参加をお待ちしています。

（文責：牛飼雅人）

Ⅴ．同門会報告

同門会総会

平成13年１月13日（土）に城山観光ホテル「鳳凰の間」にて，午後５時より同門会役員会，５時30分より同門会総会が開催されました。その後，黒野祐一教授就任３周年を記念して，日耳鼻鹿児島県地方部会との合同で学術講演会が開催されました。

講演会の演題等は以下のごとくでした。

黒野祐一教授就任３周年記念
同門会・地方部会合同特別講演会

座長　黒野祐一　先生

「これからの臨床試験」

大分医科大学附属病院　病院長　茂木五郎　先生

「鼻にみる表情と心」

鹿児島大学　名誉教授　（耳鼻咽喉科第３代主任教授）

大山　勝　先生

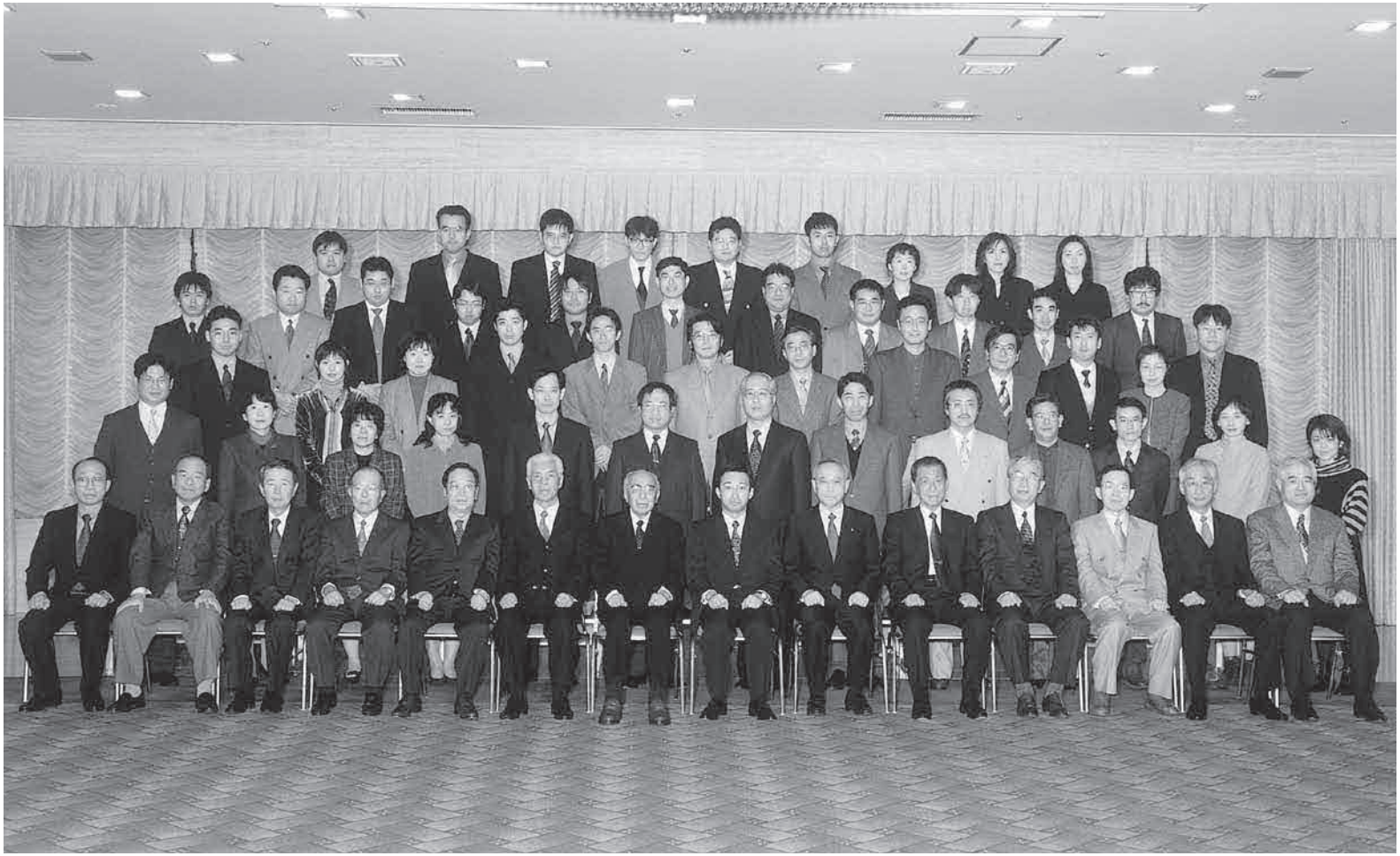
講演会終了後，新年会もかねて懇親会が開かれました。鹿児島大学名誉教授で，当教室の第２代主任教授の久保隆一先生の乾杯で会が始められ，耳鼻咽喉科医会会長，地方部会副会長の江川俊治先生の黒野祐一教授就任３周年への祝辞が述べられました。途中，黒野教授より，パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式での，就任以来３年間の「教室のあゆみ」の紹介，さらには医局員からお祝いの花束と，就任の年である1997年の赤ワインの贈呈がありました。最後に同門会理事の吉田先生による万歳三唱があり本会を終えました。

同門会，地方部会会員各位，ならびに関連病院各位の御協力により本会が盛大にとりおこなえましたことを心より感謝申し上げます。

文責　松根彰志

「３周年記念」事務局

講演会，懇親会　進行役



鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学教室同門会総会　黒野祐一教授就任３周年記念
平成13年１月13日　　於　城山観光ホテル

黒野祐一教授就任３周年記念

鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学教室同門会総会
ならびに同門会・日耳鼻鹿児島県地方部会合同学術講演会

日時：平成13年１月13日（土）

場所：城山観光ホテル　「鳳凰の間」

プログラム

午後５時より　同門会役員会　（於：鳳凰の間）

５時30分　同門会総会

６時　同門会記念撮影（於：「鳳凰の間」前　フロアー）

６時30分

黒野祐一教授就任３周年記念

同門会・地方部会合同特別講演会

座長　黒野祐一　先生

「これからの臨床試験」

大分医科大学附属病院　病院長　茂木五郎　先生

「鼻にみる表情と心」

鹿児島大学　名誉教授　大山　勝　先生

－体憩－「鳳凰の間」前　フロアーにてアルコール類、ソフトドリンクなど

８時10分より

黒野祐一教授就任３周年記念

同門会・地方部会合同懇親会・新年会

祝辞　乾杯

謝辞

万歳三唱

Ⅵ．地域医療報告

１．巡回診療（県医務課）

下 甑 村（７月12日～７月14日）

上 甑 村（10月11日～10月13日）

十 島 村（10月23日～10月28日）

十 島 村（11月６日～11月10日）

三 島 村（11月16日～11月20日）

南種子町（11月30日～12月１日）

２．身体障害者巡回診療

１月	大隅町，大根占町
２月	国分市，阿久根市
３月	上屋久町・屋久町
４月	山川町，内之浦町
５月	高尾野町，十島村，蒲生町
６月	財部町，三島村，根占町
７月	里村・上甑
８月	金峰町，菱刈町，与論町
９月	宮之城町，名瀬市，伊仙町・徳之島町・天城町
10月	鹿屋市，知名町・和泊町，志布志町
11月	川内市，坊津町，横川町
12月	東市来町，串良町

３．学校保健（統計報告）

平成12年度の鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科教室が担当した鹿児島県下の耳鼻咽喉科学校検診は平成11年4月から10月にかけて行われた。その検診結果を集計し，疾患別，学年別で解析した。

＜対象＞

本年度に実施した地域は，鹿児島市，垂水市，西之表市，阿久根市，末吉町，財部町，有明町，大崎町，志布志町，内之浦町，輝北町，頴娃町，与論町，上屋久町，伊仙町，鹿島村，下甑村，笠利町の18市町村で，受診者総数は小中学生16,449名であった。診察前に問診を予めとってもらい，症状のある児童，生徒は診察時に係の方に読み上げて頂いた。

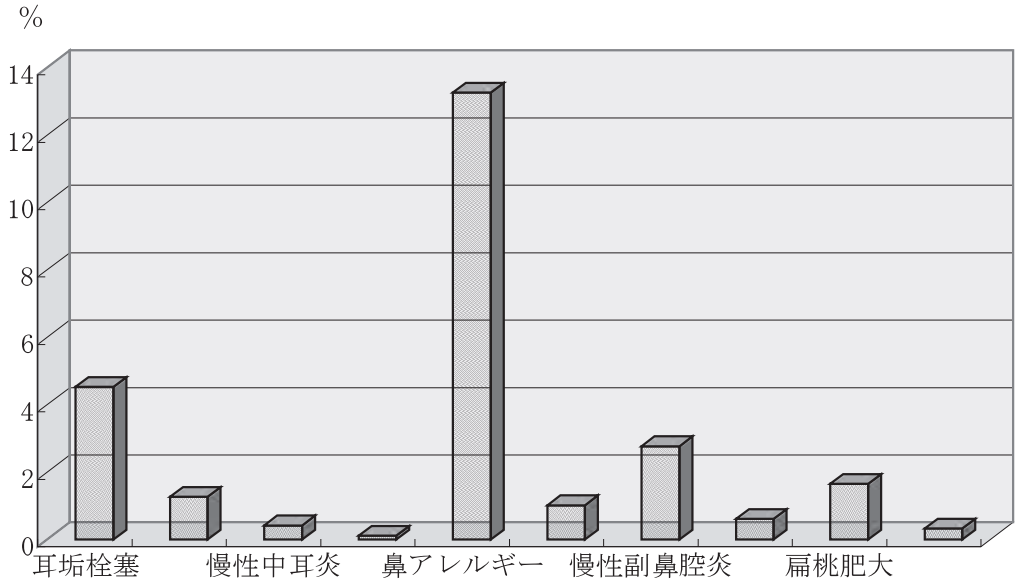
対象疾患：耳垢栓塞，浸出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔弯曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，慢性扁桃炎，扁桃肥大，その他

＜結果＞

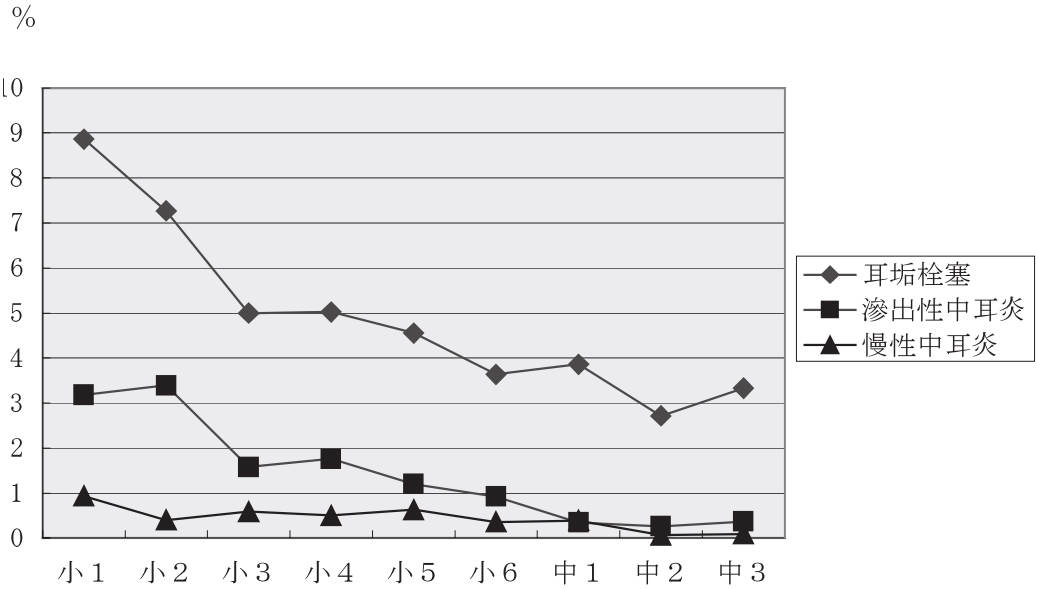
全受診者の疾患別の有病率（グラフ１）をみると，例年と同様に鼻アレルギーが他疾患と比較して高く，次いで耳垢栓塞，慢性副鼻腔炎の順である。有病率も昨年とほぼ同様であった。

次に，鼻疾患，耳疾患，扁桃疾患に分けて学年別の推移を調べた。

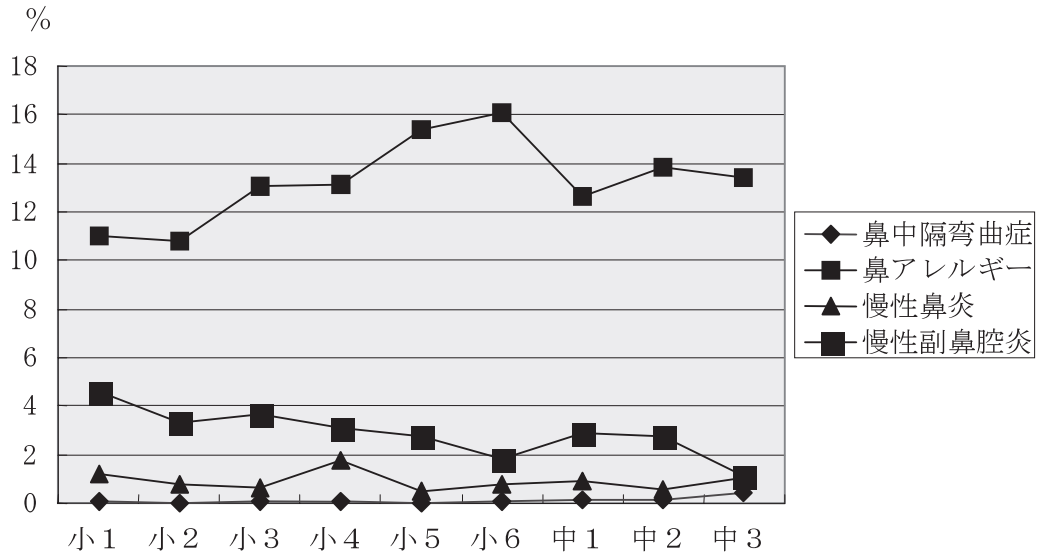
耳疾患（グラフ２）において，耳垢栓塞，滲出性中耳炎が年次に従って低下傾向を示し，慢性中耳炎は全学年において低率であった。鼻疾患（グラフ３）では鼻アレルギーが小学校中学年から高学年につれて上昇傾向がみられ，他の鼻疾患は学年による推移はなかった。扁桃疾患（グラフ４）は慢性扁桃炎が低下傾向を示した。扁桃肥大について



疾患別有病率（グラフ１）



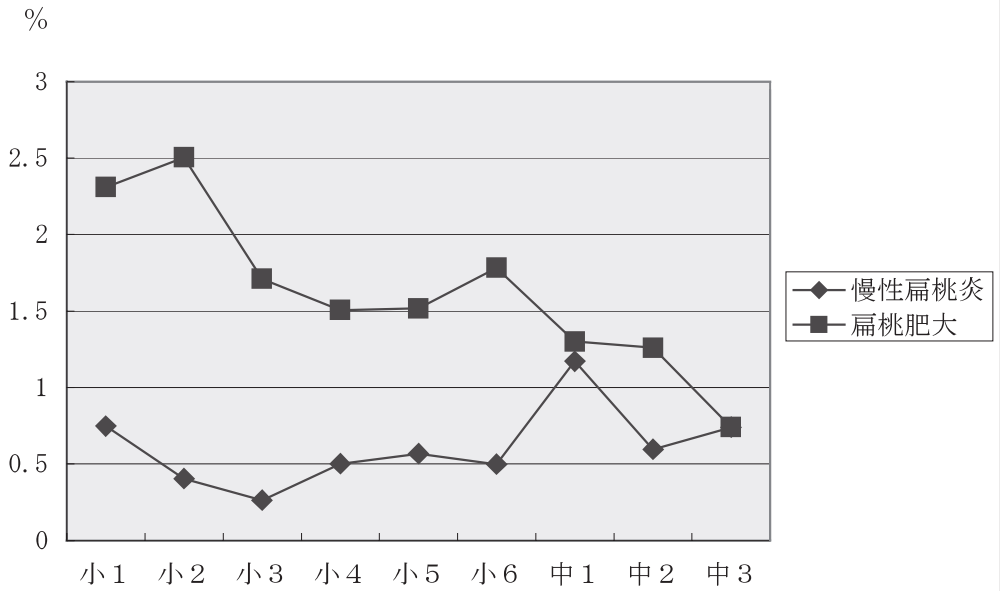
耳疾患の学年推移（グラフ２）



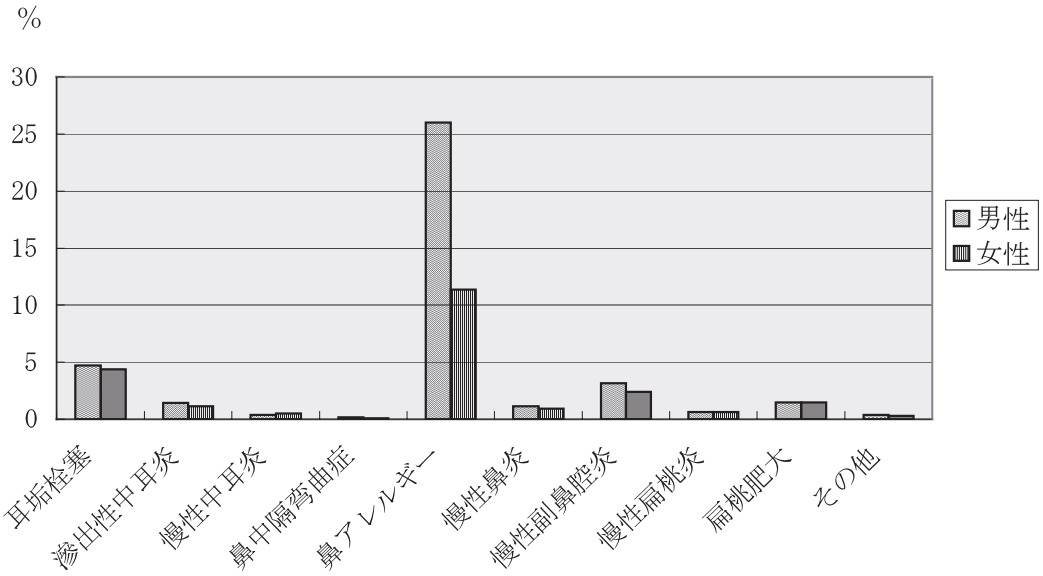
鼻疾患の学年推移（グラフ３）

は，中学生で微増しているが，検者による判断基準（生理的肥大と病的肥大等）の影響と考える。

さらに今回，男女差について解析した。（グラフ５）他疾患の男女差がないのに比べ，鼻アレルギーのみ男性が有意に多い結果となった。文献上も同様の報告がなされている。



扁桃疾患と学年推移（グラフ４）



各疾患の男女別有所見者数（グラフ５）

＜考察＞

以上平成12年度の学校検診の集計から，検診において指摘された児童生徒が即病気とは限らないが，鼻アレルギーはかなりの高率で存在するといえる。我々は学校検診の意義を理解し今後も各疾患の有病率の推移を観察し，学校保健，学校教育に役立てていく必要があると考える。

Ⅶ．特殊外来通信

１．アレルギー外来

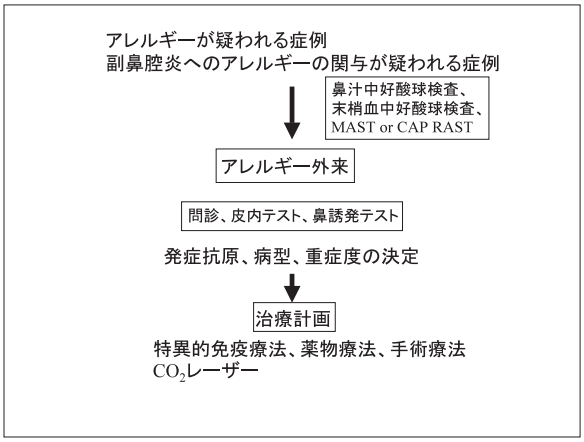


図１

アレルギー外来は，毎週月曜日午後２時よりおこなっています。

患者さんの流れは図１のようになっております。2000年のアレルギー外来新患総数は100例で，鼻アレルギーと診断された例が81例でした。

アレルギー外来開設時の目標のうち

１）アレルギー性鼻炎症例を集めて検査を効率的におこなう。

２）確実にアレルギ―性鼻炎症例をフォローし新薬の臨床試験のトライアルを行いやすい環境を作る。

以上については，ほぼ目標を達成しつつあると思います。

一方，アレルギー検査・問診の結果をふまえて

４）アレルギ―性鼻炎の病型・重症度に応じた適切な治療をおこなう。

５）アレルゲン特異的免疫療法を積極的に行う。

６）患者への啓蒙―疾患や，治療法への理解を得られるような患者教育を心がける。

７）アレルギー性鼻炎分野での臨床研究の展開。

以上は，目標としながら，まだ十分に達成できない点です。これらの点を考慮しながら今後のアレルギー外来の運営を行いたいと考えております。

診察室の個室化に関する外来アンケート結果

2000年秋，当科では，昨今の時代の流れを鑑みプライバシー保護の目的から診察室をすべて個室にいたしました。耳鼻咽喉科の外来としては，このようなスタイルは，他に類を見ない試みであります。そこで，診察室の個室化が患者サイドからはどのように受けとめられているか，今後の患者サービスはどうあるべきかを探る目的で，実際に当科を受診した患者さんにアンケートをお願い致しました。その結果についてご報告いたします。アンケートは，2000年12月末の１週間を利用しておこない，回答者は無作為に抽出した男性21名，女性29名の計50名で，平均年齢は53才でした。

表1～４より，プライバシーを重視し充分な説明を要求している患者像が浮かび上がってきます。これらの要求は診察室を個室化することで，可能になったといえます。このことが，全体の98％で，診察室の個室化をよい以上と評価した理由と思われます。

さて，大学病院の悪名高い点の一つとして待ち時間が長いということがあります。この点については，表５ごらんください。約６割の患者さんが，大学病院だから仕方ない，とあきらめにも似た境地で受診している様子が窺えます。このことは逆に，うわべだけの患者サービスでなく質の高い医療を求めている患者像を示していると思います。また個室診療を行なうとなると一人一人にかける時間が長くなる分，待ち時間も長くなることが予想されます。表６ですが，長くなった，おなじ，短くなった，いずれもほぼ同程度で一定の傾向はありませんでした。

表７～８は，医師そして外来全般に対する満足度についての結果です。6割以上の満足度を得られたことには，ひとまずほっとするところです。最後に，表９ですが，90％

表１．診察室の個室化についてどう思いますか。

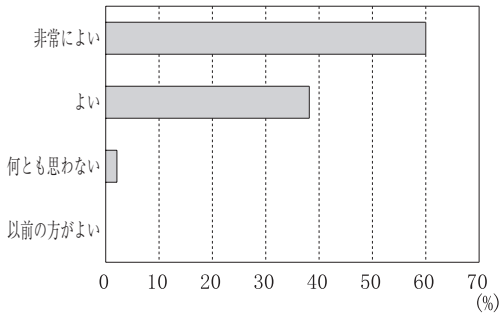


表2．(診療室の個室化について)どういう点でよいとかんじましたか。

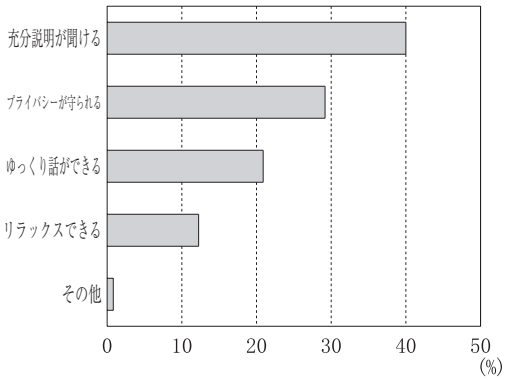


表３．診察室は快適ですか。

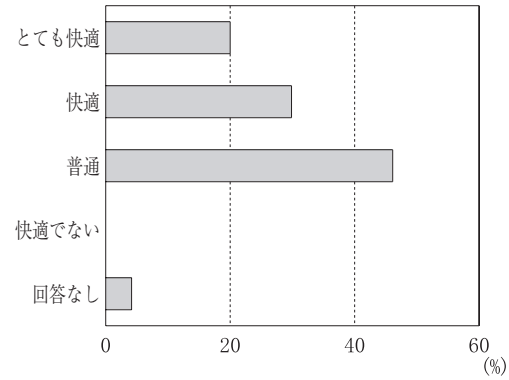


表４．どういう点でそのように感じますか。

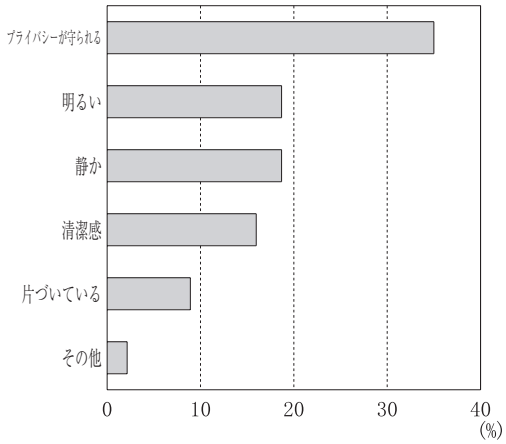


表５．当外来は，待ち時間が長いですか。

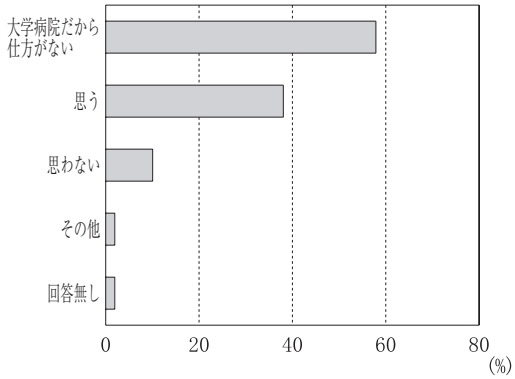


表６．個室化導入後，待ち時間はどうですか。

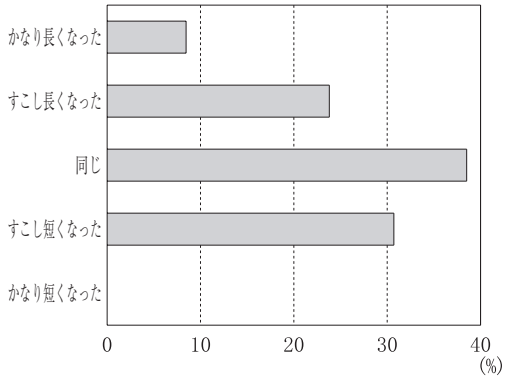


表７．当外来における治療，検査および医師からの説明に対する満足度はどれぐらいですか。

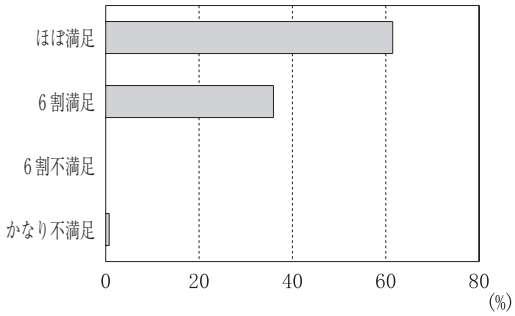


表８．当科の外来診療全般に対しての満足度はどれぐらいですか。

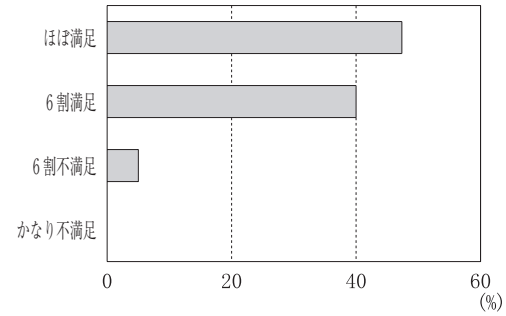
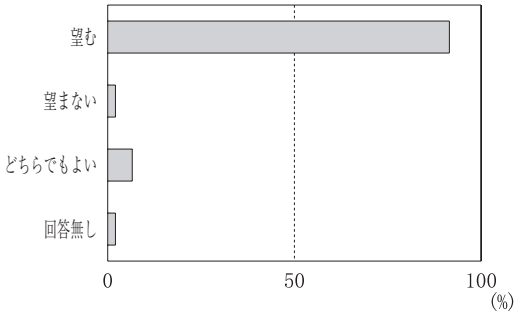


表９．主治医制（毎回同じ医師の診察を受ける
システム）を望みますか。



のアンケート回答者が，主治医制を切望しており，今後何とか対応をしたいと考えております。

以上のアンケート結果をふまえまして，患者主体の診療，快適な医療空間の整備および，up to date な医療サービスの提供にさらに努力したいと考えております。

（文責：宮之原郁代）

２．中耳炎外来

黒野教授の赴任以来，毎週火曜日の午前中を中心に中耳炎外来として，滲出性中耳炎や急性中耳炎症例の診療を行っていますが，特に現在，小児急性中耳炎の初期治療についての臨床研究に取り組んでいます。治療プロトコールとして，小児急性中耳炎の軽～中等症の症例に対しては初診時には抗生剤の投与を行わず，鎮痛剤の投与のみを対照的に行います。３日後の再診時に不変あるいは増悪傾向があれば抗生剤の投与を行い，改善傾向にあればそのまま抗生剤の投与は行わず対照的に経過を見ることとします。このプロトコールでの治療成績の一部は，昨年の耳科学会において発表しましたが，多くの例では抗生剤の投与がなくとも治癒するようです。ただ，大学病院の性格上，急性中耳炎症例は夜間や休日に時間外受診する例がほとんどで，一回きりの診察が多くなかなか再診してもらえず，なかなか症例数が増えないのが悩みです。

急性中耳炎の主な起炎菌である肺炎球菌やインフルエンザ桿菌の薬剤耐性化が進む現在，適切な抗生剤の使用のためのガイドライン作成は急務であるとされています。さらに症例を積み重ねてガイドラインづくりの一助となればと思っています。

（文責：牛飼雅人）

３．副鼻腔炎外来

毎週（火），（木）の午前中を中心に，当科での内視鏡下鼻内副鼻腔手術例（ＥＳＳ）の術後治療等を継続して行っています。

これまでにも，機会があるごとに報告してきましたが，喘息を含めた下気道慢性炎症性疾患の合併例を除いて通常の慢性副鼻腔炎では，術後１～２回／月を２～３ヶ月間，本再来へ通院をしてもらえればたいていは治癒します。当科での保存的治療抵抗例に対する「ＥＳＳから本再来，そして治癒」への流れは，教育的意義もふまえ県下における本疾患治療のスタンダードとして維持していく必要がありますが，以下の研究的課題にも取り組む必要があると考えています。

（１）嗅覚障害の検査と治療データの集積。

副鼻腔炎による嗅覚障害の検査や治療成績を中心に，「治せる嗅覚障害」の全体像を示す必要があると思います。現在，鼻科学会の嗅覚機能検査検討委員会で課題となっている「噴霧式嗅覚機能検査法」の調査にも有用なデータを提出していく必要があります。

（２）アレルギー性副鼻腔炎の診断と治療の確立をめざして。

アレルギー性鼻炎と慢性副鼻腔炎の合併例を中心に，マクロライドやステロイドも含めた抗アレルギー剤の併用，または各々の単独使用の有用性の比較検討や同症例のＥＳＳ予定例に対する術前の投薬内容や，術前Ｘｐ像，術中副鼻腔内所見，抗酸球浸潤も含めた粘膜組織所見像の比較検討等を行い，学会や論文を通じて情報の発信を行っていきたいと思います。

（３）難治例の治療法の確立をめざして。

アスピリン喘息，喘息，気管支拡張症等を合併した狭義の副鼻腔気管支症候群，これらは厳密にはすべて病態が異なります。しかし，再発をくり返す難治性の副鼻腔炎を合併し，末梢血中の好酸球の増多やサイトカイン産生リンパ球像の変化をはじめとする骨髄または全身のレベルでの反応を伴う点等で共通点が見られます。また，副鼻腔炎の手術治療を積極的に行うことにより下気道症状の軽減を得られると云われてはいますが，いざＥＳＳをやってみると大変な出血にあい，つらい思いをすることが多いのも事実です。様々な点を考慮して，やはり大学で責任をもってやる必要のある症例群，領域であると考えています。細かい事はコツも含めていろいろありますが，全身または局所のス

テロイド剤の投与に工夫とさじ加減を要するのが第一で，あきらめずに治療にあたることにより必ずＱＯＬの向上という比較的良好なコントロール状態にもっていける印象を持っています。

以上，最近の話題とも関連した，本再来の問題意識を列記しました。

（文責：松根彰志）

４．頭頸部腫瘍外来

我々は，当科で入院加療した頭頸部悪性腫瘍患者に対して，退院したあとの治療後定期観察と治療評価のために毎週木曜日（午前中）に頭頸部腫瘍再来を行っています。また，毎週木曜の午後は頭頸部のエコー検査や他の特殊検査を行っています。最近は，超音波診断装置が外来にあるため，何か異常があったときはすぐにエコー検査ができて重宝しています（まだ，正式に購入したわけではありませんが)。

ここ１，２年，人事が大きく変わったこともあり，この頭頸部腫瘍再来に従事している主要メンバーは格段に若返りました。若返ったからといって患者さんが変わるわけでもなく，今まで定期的に診察していた患者さんに加えて，新たに退院されてきた患者さんが加わり，忙しい外来を何とかこなしている状態です。

最近の，頭頸部悪性腫瘍に対する治療方針ですが，手術治療が主体なのは変わりありませんが，術前治療としてパラプラチン，シスプラチンの weakly 投与に約40Gy の放射線治療を併用する chemoradiotherapy を行い，自己血貯血をして手術に望むという方針をとっています。もちろんケースバイケースで手術を先行したり，neo-adjuvant chemotherapy 後に手術をしている症例もあります。他施設からの報告では，chemoradiotherapy の成績が良いというものもあり，当科での治療成績も過去のものと比べどの程度改善するのか症例数を重ねて検討するつもりです。

2000年１月から12月までに当科で入院治療した新症例は以下の通りです（この中には根治的な手術療法をせず，放射線治療や化学療法などを行っただけの症例も含まれます。悪性リンパ腫は，主に内科で治療をするため含まれていません)。

喉頭：11例，舌口腔：12例，上咽頭：3例，中咽頭：8例，下咽頭：9例
鼻副鼻腔：7例，甲状腺：5例，唾液腺：7例

計62例

登録患者総数も900例近くなってきています。忙しい中にも自分自身の診断能力，技術の向上を常日頃から目指し，この外来でも十分に生かせればと考えています。

（文責：西元謙吾）

Ⅷ. 2000年度病理集計

担当　宮之原　利男

１）悪性腫瘍（対象者87名）

診　断　名	人数	組　織　型
喉頭腫瘍	14	SCC(14)
下咽頭腫瘍	10	SCC(10)
中咽頭腫瘍	7	SCC(7)
鼻腔腫瘍	7	SCC(2), mucoepidermoid carcinoma(1) adenocarcinoma(1), malignant melanoma(1) caltifying epithelial odontogenic tumor(1) undifferentiated carcinoma(1)
甲状腺腫瘍	6	papillary carcinoma(5), follicular carcinoma(1)
上顎洞腫瘍	5	SCC(5)
舌腫瘍	5	SCC(5)
耳下腺腫瘍	5	SCC(2), adenocarcinoma(1) oncocytoma (1), salivary duct carcinoma(1)
上咽頭腫瘍	3	SCC(2), undifferentiated carcinoma(1)
頸部腫瘍	3	SCC(1), mucoepidermoid carcinoma(1) periferal primitive neuroectodermal tumor(1)
歯肉腫瘍	2	SCC(2)
下顎腫瘍	1	SCC(1)
下口唇腫瘍	1	SCC(1)
顎下腺腫瘍	1	SCC(1)
口腔底腫瘍	1	SCC(1)
硬口蓋腫瘍	1	SCC(1)
頬粘膜腫瘍	1	SCC(1)
蝶形骨洞腫瘍	1	extramedullary plasmacytoma(1)
malignant lymphoma	8	生検部位：頸部リンパ節(3)、鼻腔(2)、上咽頭(1) 耳下腺(1)、硬口蓋(1)

２）良性腫瘍（対象者32名）

臨　床　診　断	人数	組　　織　　型
耳下腺腫瘍	10	Warthin tumor (6), pleomorphic adenoma (3) basal cell adenoma (1)
鼻腔腫瘍	7	inverted papilloma (2), papilloma (2) angiofibroma (1), neurofibroma (1) schwannoma (1), hemangioma (1)
甲状腺腫瘍	3	follicular adenoma (3)
頸部腫瘍	3	hemangioma (1), paraganglioma (1) schwannoma (1)
蝶形骨洞腫瘍	2	Osteoma (1), pituitary type adenoma (1)
喉頭腫瘍	1	papilloma (1)
上顎洞腫瘍	1	inverted papilloma (1)
舌腫瘍	1	hemangioma (1)
副咽頭腫瘍	1	neurilemmoma (1)
副甲状腺腫瘍	1	adenoma (1)
頬粘膜腫瘍	1	cavernous hemangioma (1)
中咽頭腫瘍	1	fibroma (1)

Ⅸ. 各省庁諸研究

文部省科学研究費（平成12年12月現在）

基盤研究（B）(2)

上気道感染症予防ワクチンの開発とその粘膜免疫応答に関する基礎的研究

代表者　　黒野祐一

分担者　　松根彰志　牛飼雅人　宮之原郁代　出口浩二

基盤研究　(C) (2)

鼻副鼻腔炎粘膜における血管増殖制御機構に関する基礎的研究

── 難治性慢性気道炎の病態解明と治療をめざして ──

代表者　　松根彰志

分担者　　黒野祐一　牛飼雅人　宮之原郁代　出口浩二

基盤研究（C）(2)

鼻アレルギーにおけるヘルパーＴ細胞のサイトカイン産生能と治療効果に関する研究

代表者　　黒野祐一

分担者　　松根彰志　宮之原郁代　出口浩二　西元謙吾

奨励研究（A）

味覚・嗅覚機能検査の標準化による「おいしさ」障害の研究

代表者　　西元謙吾

特定領域研究（A）

環太平洋地域におけるがんの要因探索

代表者　　秋葉澄伯

分担者　　愛甲　孝　栄鶴義人　黒野祐一　郡山千早　伊藤哲彦　大谷文雄

X. 業　　績

1. 原　　著

(1) **出口浩二**，花牟礼　豊，**松根彰志**，**黒野祐一**：呼吸上皮障害に伴う炎症の慢性化について．Bacterial Adherence 研究，13: 56-60，1999

(2) **吉福孝介**，**西園浩文**，**松崎　勉**，**松根彰志**，**西元謙吾**，**黒野祐一**：中鼻道に発生した有茎性鼻咽腔血管線維腫．耳鼻臨床，92(11)：1205-1209，1999

(3) **黒野祐一**：中耳炎とサイトカイン．耳鼻臨床，93(4)：259-265，2000

(4) **黒野祐一**，**福岩達哉**，**松根彰志**，**宮之原郁代**，**牛飼雅人**：エアロゾルによる上気道ワクチン療法の可能性．耳鼻咽喉科展望，43(補1)：37-42，2000

(5) **高木　実**，**松根彰志**，**宮之原郁代**，**牛飼雅人**，**松崎　勉**，**黒野祐一**：当科における上顎洞真菌症症例の検討．日本鼻科学会会誌，39(2)：127-130，2000

(6) **岩坪哲治**，**松根彰志**，**宮之原郁代**，**西園浩文**，**牛飼雅人**，**黒野祐一**：Haller's cell と慢性副鼻腔炎－CT による検討－．耳鼻臨床，93(11)：923-927，2000

(7) **高木　実**，**牛飼雅人**，**西園浩文**，**松崎　勉**，**松根彰志**，**黒野祐一**：頭頸部領域における結核症例の検討．日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌，18(1)：105-107，2000

(8) **河野もと子**，**森園健介**，**福岩達哉**，**福山　聡**，**宮之原利男**，**西元謙吾**，**林　多聞**，**松根彰志**，**黒野祐一**：眼症状を伴う副鼻腔炎症例の検討．日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌，18(1)：64-69，2000

(9) **黒野祐一**，**岩坪哲治**，**林　多聞**，**出口浩二**，**松根彰志**：口蓋扁桃のケラチンに対する免疫応答．口咽科，12(2)：199-204，2000

(10) **黒野祐一**，**牛飼雅人**：耳性・鼻性髄膜炎．耳鼻咽喉科・頭頸部外科，72(5)：55-60，2000

(11) **黒野祐一**：上気道感染症と粘膜免疫－扁桃の機能と病態－．西日本歯科矯正学会雑誌，45(1)：6-10，2000

(12) **黒野祐一**，**出口浩二**：副腎皮質ホルモン．JOHNS，16(9)：1325-1327，2000

(13) **黒野祐一**：鼻漏の鑑別診断．JOHNS，16(10)：1583-1586，2000

(14) **森園健介**，**西元謙吾**，**牛飼雅人**，**宮之原郁代**，**松崎　勉**，**松根彰志**，**黒野祐一**：頤下部と顎下部に同時に発生した皮様嚢胞例．耳鼻臨床，93(12)：1061-1065，2000

(15) **T.Miyanohara**，**M.Ushikai**，**S.Matsune**，**K.Ueno**，**S.Katahira**，**Y.Kurono**：Effects of Clarithromycin on Cultured Human Nasal Epithelial Cells and Fibrolasts. The Laryngoscope, 110: 126-131, 2000

(16) **S.Matsune**, S.Ide, K.Matsuo, I.Maruyama, **Y.Kurono**：The role of vasucular endothelial growth factor (VEGF) in rhinosinusitis. Proceeding of Airway Secretion Research, 1: 35-37, 1999

(17) **Yuichi Kurono**, Masashi Suzuki and Goro Mogi：Mucosal vaccination against otitis media. New Frontiers in Immunobiology, 29-33, 2000

(18) **S.Matsune**, **M.Egawa**, M.Ohyama and **Y.Kurono**：Uptake of BrdU in Olfactory and

Respiratory Epithelium of Rabbits with Experimental Sinusitis. Acta Otolaryngol, 120: 535-539, 2000

(19) **S.Matsune**, **I.Miyanohara**, M.Ohyama, **Y.Kurono**: Application of YAMIK sinus catheter for patients with paranasal sinusitis with and without nasal allergy. Auris Nasus Larynx, 27: 343-347, 2000

(20) **K.Nishimoto**, **S.Matsune**, K.Miyadera, Y.Takebayashi, T.Furukawa, T.Sumizawa, S.Akiyama, and **Y.Kurono** : The Role Thymidine Phosphorylase in the Pathogenesis of Allergic Rhinitis. Acta Otolaryngol, 120: 644-648, 2000

(21) **I.Miyanohara**, **S.Matsune**, H.Osiro and **Y.Kurono** : The role of immune responses against *Haemophius influenzae* and soluble CD14 (sCD14) in the prognosis of chronic sinusitis. Proceeding of Airway Secretion Research, 1: 31-36, 2000

2．総　　説

(1) **松根彰志**，**黒野祐一**：慢性咽喉頭炎．JOHNS，16(6)：881-884，2000

(2) **福山　聡**，廣井隆親，清野　宏：鼻粘膜の免疫：NALT を中心とした免疫誘導．臨床免疫，34(2)：239-247，2000

(3) **松根彰志**：慢性副鼻腔炎の診断と治療．綜合臨床，49(8)：2303-2304，2000

3．そ の 他

南日本新聞　紙上診察室　３月14日
「嗅覚障害」
黒野祐一

牛飼雅人

Medical Tribune　７月27日
「座談会　夏から秋にかけてのアレルギー性鼻炎対策」
黒野祐一

南日本新聞　紙上診察室　９月12日
「鼻出血」
宮之原郁代

健康相談室　副鼻腔炎の「ロシア生まれの新治療」ってどんなもの？
すこやかファミリー（健康保険組合発行）p31　10月１日発行　2000.
　松根彰志

南日本新聞　紙上診察室　11月14日
「耳下腺腫瘍」
　西元謙吾

南日本新聞　育児ボックス　11月22日
「鼻出血」
　宮之原郁代

４．国内学会発表

⑴　特別講演

宮崎医科大学講義　１月14日　（宮崎）
「上気道の免疫」
　黒野祐一

川内医師会講演会　２月2日　（鹿児島）
「日常臨床における上気道感染症の診かた」
　黒野祐一

大分医科大学講義　２月８日　（大分）
「鼻副鼻腔腫瘍の診断と治療」
　黒野祐一

姶良郡薬剤師会病薬部会第４回研修会　２月16日　（鹿児島）
「耳鼻咽喉科の感染症と抗菌剤」
　松根彰志

島根医科大学講義　２月17日　（島根）
「扁桃疾患の基礎と臨床」
　黒野祐一

日本耳鼻咽喉科学会　島根県地方部会　学術講演会　２月17日　（島根）
「滲出性中耳炎の病態と治療」
　黒野祐一

第45回西日本歯科矯正学会大会　２月19日　（鹿児島）
「上気道感染症と粘膜免疫」
　黒野祐一

第64回徳島県耳鼻科医会研修会　２月20日　（徳島）
「中耳炎の病態と治療－最近の話題－」
　黒野祐一

筑豊小児科医会学術講演会　２月24日　（福岡）
「日常診療における耳鼻咽喉科感染症の診かた」
　黒野祐一

熊本大学講義　４月19日　（熊本）
「上気道疾患と粘膜免疫」－基礎と臨床－
　黒野祐一

島根医科大学　６月６日　（島根）
「中耳炎に関する最新の話題」
　黒野祐一

第62回耳鼻咽喉科臨床学会ランチョンセミナー　７月７日　（福井）
「滲出性中耳炎難治例の問題点－遷延化の機序とその対策－」
　黒野祐一

日耳鼻山梨県地方部会学術講演会　７月13日　（山梨）
「滲出性中耳炎の病態と治療」
　黒野祐一

第14回北九州小児感染症懇話会　７月14日　（福岡）
「上気道感染症の病態と治療」
　黒野祐一

アレルギー懇話室　収録　７月16日　（福岡）
「中耳炎とアレルギー」
　黒野祐一

第３回宮崎鼻・副鼻腔研究会　８月26日　（宮崎）
「内視鏡下鼻内手術の実際と問題点」
　黒野祐一

全国花粉症座談会　９月24日　（福岡）
　黒野祐一

第23回上気道疾患勉強会　９月30日　（大阪）
「上気道感染症と粘膜免疫」～基礎から臨床へ～
　黒野祐一

日置郡医学学術研究会　10月26日　（鹿児島）
「日常診療における神経耳科学的診療と治療－めまい・難聴の見方－」
　黒野祐一

座談会　10月27日　（東京）
「鼻アレルギー疾患治療における日常診療のポイント」
　黒野祐一

第３回京都免疫アレルギー研究会　11月25日　（京都）
「上気道におけるアレルギー性炎症」
　黒野祐一

鹿児島県歯科医師会傷害者フォーラム　12月３日　（鹿児島）
「鼻呼吸機能の口腔発達に及ぼす影響」
　黒野祐一

アレルギー懇話室　収録　12月24日　（福岡）
「喉のアレルギー」
　黒野祐一

⑵　シンポジウム

第39回　日本鼻科学会　９月28日～30日　（石川）
サテライトシンポジウム　副鼻腔炎の効果的保存的療法
「YAMIK カテーテル治療と摂取貯留液から得られる病態情報」
　松根彰志

⑶　一　　般

第10回　日本頭頸部外科学会　１月21日～22日　（大分）
「眼窩吹抜け骨折（下壁型）に対する内視鏡下鼻内手術」
　松根彰志，林　多聞，岩坪哲治，大城　浩，福岩達哉，西元謙吾，黒野祐一
「当科入院患者における MRSA 発生状況」
　西園浩文，西元謙吾，出口浩二，松根彰志，黒野祐一
「副咽頭間隙腫瘍に対する外科的治療における問題点」
　出口浩二，西元謙吾，岩坪哲治，西園浩文，松根彰志，黒野祐一
「当科における頬骨骨折治療について」
　林　多聞，松根彰志，宮之原郁代，出口浩二，黒野祐一

第24回　睡眠呼吸障害研究会　２月19日　（東京）
「UPPP 術後の長期予後についての検討」
　岩元光明，西園浩文，黒野祐一

第12回　気道病態シンポジウム　２月26日　（東京）
「鼻粘膜上皮細胞の繊毛新生過程と細胞分化」
　出口浩二，西元謙吾，牛飼雅人，松根彰志，黒野祐一

平成12年　頭頸部腫瘍合同セミナー　３月３日　（鹿児島）
「当科における高度医療と画像」
　松根彰志

第22回　鹿児島感染症研究会　３月17日　（鹿児島）
「当科入院患者における MRSA 発生状況」
　西園浩文，西元謙吾，出口浩二，松根彰志，黒野祐一
　鹿児島大学医学部附属病院感染症対策委員会サーベイランススタッフ

第12回　日本喉頭科学会　３月17日～18日　（久留米）
「結核性回腸穿孔を合併した喉頭結核の一例」
　牛飼雅人，福岩達哉，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一
「当科における特発性喉頭肉芽腫」
　福岩達哉，牛飼雅人，出口浩二，西園浩文，黒野祐一

第18回　日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会　３月24日～25日　（金沢）
「扁桃におけるケラチン特異的抗体産生」
　黒野祐一，岩坪哲治，林　多聞，出口浩二

「口蓋扁桃 CD14 陽性細胞のサイトカイン産生能－末梢血単球との比較－」
河野もと子，黒野祐一
「鼻粘膜血管内皮細胞における NF-κB 活性及び VCAM-1 発現に対する Cetirizine の効果」
鮫島篤史，牛飼雅人，高木　実，宮之原利男，黒野祐一
「鼻アレルギー粘膜における Thymidine Phosphorylase の分布」
西元謙吾，松根彰志，河野もと子，黒野祐一

第27回日耳鼻南九州合同地方部会　4月15日　（宮崎）
「当科における甲状腺腫瘍症例－FNA の有用性を中心として－」
花田武浩，関　大八郎，小川和昭，廣田常治
「顎下腺　epithelial myoepithelial carcinoma の１例」
吉福孝介，平瀬博之
「当科における形質細胞腫症例の検討」
岩元光明，松根彰志，宮之原郁代，西園浩文，黒野祐一
「アデノイド由来培養線維芽細胞における IL-8 発現と NF-κB」
高木　実，鮫島篤史，牛飼雅人，黒野祐一

第12回日本アレルギー学会春季臨床大会　4月20日～22日　（福岡）
「低酸素及びアレルギーの合併と副鼻腔炎病態」
松根彰志，河野もと子，牛飼雅人，出口浩二，黒野祐一
「鼻粘膜血管内皮細胞における NF-κB 活性及び VCAM-Ⅰ発現に対する Cetirizine の効果」
鮫島篤史，牛飼雅人，高木　実，宮之原利男，黒野祐一

第101回　日本耳鼻咽喉科学会総会　5月18日～20日　（東京）
「低酸素環境下の副鼻腔炎粘膜病態の検討」
松根彰志，河野もと子，牛飼雅人，出口浩二，黒野祐一
「鼻粘膜上皮細胞の繊毛新生過程と細胞分化」
出口浩二，西元謙吾，牛飼雅人，松根彰志，黒野祐一
「当科における内視鏡下鼻内副鼻腔手術による嗅覚改善成績」
積山幸祐，松根彰志，出口浩二，西元謙吾，黒野祐一

第20回　気道分泌研究会　5月27日　（徳島）
「低酸素状態で鼻茸線維芽細胞より産生分泌される血管内皮増殖因子（VEGF），ケモカインについて」
松根彰志，河野もと子，牛飼雅人，出口浩二，黒野祐一
「慢性副鼻腔炎におけるエンドトキシンと sCD14 に関する検討」
大城　浩，松根彰志，宮之原郁代，牛飼雅人，黒野祐一

第24回日本頭頸部腫瘍学会　第21回頭頸部手術手技研究会　６月14日～16日（東京）
「放射線誘発性癌が疑われた下咽頭癌２症例」
　西元謙吾，大城　浩，出口浩二，西園浩文，黒野祐一

「当科における頸部郭清術術式の選択について」
　林　多聞，西園浩文，黒野祐一
「舌口腔底癌術後における嚥下機能についての検討」
　高木　実，西園浩文，出口浩二，西元謙吾，黒野祐一

第95回日耳鼻鹿児島県地方部会学術講演会　６月18日　（鹿児島）
「急性副鼻腔炎より波及した頭蓋内膿瘍の１例」
　濱崎喜與志，松崎　勉，勝田兼司，内村公一，原田健一，濱田陸三，松岡英樹
「顔面神経麻痺を合併した小児急性中耳炎の１例」
　福岩達哉，鮫島篤史，西元謙吾，黒野祐一
「最近の当科における睡眠時無呼吸症候群の診断と治療」
　岩元光明，西園浩文，松根彰志，黒野祐一
「エアバックによる頭部外傷性難聴の１例」
　関　大八郎，平瀬博之
「当科における内視鏡下中耳手術」
　出口浩二，西園浩文，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一
「当科における膿瘍扁摘の検討」
　宮之原郁代，牛飼雅人，福岩達哉，出口浩二，黒野祐一

第62回耳鼻咽喉科臨床学会　７月７日～８日　（福井）
「滲出性中耳炎難治例の問題点～遷延化の機序とその対策」
　黒野祐一
「当科の両側耳下腺腫瘍症例の検討」
　河野もと子，岩元光明，岩坪哲治，黒野祐一
「蝶形骨洞に発生した髄外性形質細胞腫の２例」
　岩元光明，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一

日本耳鼻咽喉科学会第15回九州連合地方部会学術講演会　７月29日～30日　（福岡）
「肋骨付き大胸筋皮弁による口腔下顎骨再建症例」
　西元謙吾，西園浩文，林　多聞，牛飼雅人，黒野祐一
「アデノイド線維芽細胞における NF-κB の活性化と IL-8 発現」
　高木　実，大堀純一郎，鮫島篤史，牛飼雅人，黒野祐一
「両側外リンパ瘻の１症例」
　積山幸祐，笠野藤彦，花牟礼　豊，鹿島直子

第４回アレルギーと反復感染症を考える会
－Allergy and Recurrent Infection Study group (ARIS)－　８月19日～20日　（山梨）
「アレルギー性副鼻腔炎に関する臨床的および基礎的検討」
　松根彰志，黒野祐一

第30回日本耳鼻咽喉科感染症研究会，第24回日本医用エアロゾル研究会
９月１日～２日　（東京）
「低酸素下 LPS 刺激による鼻茸線維芽細胞の VEGF とケモカイン」
　松根彰志，宮之原郁代，大城　浩，黒野祐一
「両側扁桃周囲膿瘍の１例」
　宮之原郁代，牛飼雅人，福岩達哉，出口浩二，黒野祐一

第13回　日本口腔咽頭科学会学術講演会　９月８日～10日　（名古屋）
「グルタミン酸ナトリウムによる全口腔法味覚閾値検査」
　西元謙吾，高木　実，岩元光明，黒野祐一
「当科における高齢者に対する扁桃手術の検討」
　岩元光明，西元謙吾，黒野祐一
「口蓋扁桃摘出術後に発症した顔面頸部皮下気腫の１例」
　大城　浩，西元謙吾，黒野祐一
「アデノイド線維芽細胞における NF-κB の活性化と IL-8 発現」
　高木　実，鮫島篤史，牛飼雅人，黒野祐一

第39回　日本鼻科学会　９月28日～30日　（石川）
「原発性小児鼻副鼻腔嚢胞の一例」
　出口浩二，宮之原郁代，松根彰志，黒野祐一
「当科における前頭洞手術症例の検討」
　岩元光明，松根彰志，黒野祐一
「内視鏡下副鼻腔手術症例における嗅覚機能の検討」
　吉福孝介，松根彰志，積山幸祐，黒野祐一

第10回　日本耳科学会学術講演会　10月19日～21日　（静岡）
「小児急性中耳炎に対する初期治療についての検討」
　牛飼雅人，宮之原郁代，出口浩二，黒野祐一
「中耳に発生した神経内分泌腫瘍の１症例」
　宮之原郁代，岩元光明，牛飼雅人，出口浩二，松下能文，**黒野祐一**
「特異な経過を呈したムンプス難聴」
　高木　実，宮之原郁代，黒野祐一

第30回　日本免疫学会総会・学術集会　11月14日～16日　（宮城）
「Organogenesis of nasal assosiated lymphoid tissue (NALT) is independent from IL-7R and LT β R mediated cytokine signaling pathway」
S.Fukuyama, T.Hiroi, N.Kinoshita, M.Yanagita, M.Yamamoto, I.Takahashi, **Y.Kurono**, H,Kiyono

第52回　日本気管食道科学会　11月16日～17日　（広島）
「食道癌に重複した頭頸部悪性腫瘍の検討」
西元謙吾，福岩達哉，林　多聞，西園浩文，黒野祐一
「局所皮弁による食道再建を行った２症例」
林　多聞，牛飼雅人，西元謙吾，高木　実，黒野祐一

５．国際学会発表

The 5th Asian Research Symposium in Rhinology (ARSR) Jan 27-28 (Bangkok, Thailand)
「THE EFFECTS OF MACROLIDES ON ACTIVATION OF NF κ -B AND PRODUCTION OF INFLAMMATORY CYTOKINES IN NASAL MUCOSA」
Y.Kurono, T.Miyanohara, M.Ushikai, S.Matsune
「FUCOSYLATED (H TYPE 3) ANTIGEN IN MUCOCILIARY CULTURE IS EXPRESSED MAINLY IN THE CILIATED CELL LINEAGE」
K.Deguchi, K.Nishimoto and Y.Kurono
「THE ROLE OF THYMIDINE PHOSPHORYLASE IN THE PATHOGENESIS OF ALLERGIC RHINITIS
K.Nishimoto, K.Deguchi and Y.Kurono

Immunology 2000 May 12-16 (seatle, U.S.A)
「Uniquness of lymphoid tissue organogenesis for nasal-assosiated lymphoid tissue (NALT)」
S.Fukuyama, T.Hiroi, N.Kinoshita, M.Yanagita, **Y.Kurono** and H.Kiyono

XVIII CONGRESS OF EUROPEAN RHINOLOGIC SOCIETY
XIX INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON INFECTION AND ALLERGY OF THE NOSE JUNE 25-29 (BARCELONA)
「EFFECTS OF CLARITHROMYCIN ON CULTURED HUMAN NASAL EPITHELIAL CELLS AND FIBROBLASTS」
Y.Kurono, T.Miyanohara, M.Takaki, M.Ushikai, and S.Matsune
「PRODUCTION OF VASCULAR ENDOTHELIAL GROWTH FACTOR AND CHEMOKINES FROM CULTURED NASAL FIBROBLASTS BY HYPOXIA AND LIPOPOLYSACCHARIDES」

S.Matsune, M.Kono, M.Ushikai, K.Matuo, Y.Kurono
「INFLUENCE OF *HAEMOPHILUS INFLUENZAE* INFECTION ON CLINACAL PROGNOSIS IN 43 PATIENTS WITH CHRONIC SINUSITIS」
I.Miyanohara, S.Matsune, K.Ueno, M.Ushikai, and Y.Kurono

International Federation of Oto-rhino-laryngological Societies Consensus Conference on Nasal Polyposis October 5-7 (Siena, Italy)
「Hypoxic condition in paranasal sinus is a factor generating nasal polyps.」
Y.Kurono, S.Matsune, M.Kohno, M.Ushikai, and M.takaki
「The Effects of Carbocistein on Mucin Gene Expression in Nasal Epithelial Cells.」
M.Ushikai, M.Takaki, and Y.Kurono

6．学位論文要旨

医論第1275号

慢性副鼻腔炎における上顎洞粘膜のリンパ濾胞形成について

鶴　丸　浩　士

【目的】慢性副鼻腔炎は近年その病態像が大きく変化し，治療法についても変革がみられた。しかしながら，その発症や遷延化のメカニズムについては十分に解明されたとは言い難い。そこで著者は，慢性副鼻腔炎における洞粘膜の病理組織学的な変化の一つであるリンパ濾胞形成に着目し，病態解明のため粘膜免疫の観点より究明を行なった。

【研究方法】慢性副鼻腔炎の診断にて摘出された上顎洞粘膜27症例31側について検討した。１）リンパ濾胞と高内皮細静脈（HEV; high endotherial venules）：採取標本はパラフィン切片作成後，HE 染色にてリンパ濾胞形成の有無，リンパ球の再循環現象に関係する HEV の存在について検索し，近傍の上皮構造の変化についても検討した。２）リンパ濾胞形成と細胞動態：リンパ球集積をその程度でリンパ球浸潤，集簇，cluster，濾胞の４段階に分類し，細胞マーカーとしてＢ細胞をＬ26，Ｔ細胞を UCHL1，CD8，OPD4 を用いた免疫組織化学的染色を施しＴ，Ｂリンパ球の細胞動態を光学顕微鏡下に検討した。また樹状細胞を含めた抗原提示細胞について抗 S-100抗体でその分布を検索した。３）濾胞樹状細胞（FDC; follicular dendritic cell）と接着分子：凍結切片上で dendritic reticulum cell（DRC）抗体を用いて濾胞樹状細胞の同定を行い，FDC とＢリンパ球の相互作用に重要な役割を果たしているとされる接着分子 vascular cell adohesion molecules（VCAM-1），very late antigen 4（VLA-4）の発現を検討した。４）リンパ濾胞と免疫グロブリン：免疫グロブリン産生細胞を抗 IgA，IgM 抗体で染色し観察した。

【研究結果】 1）リンパ球集簇は24症例27側87.1％に，リンパ濾胞は14症例15側48.4％に観察され，HEV もその周囲に24症例27側87.1％と高頻度に認められた。またリンパ球集積部の上皮には繊毛消失，断裂並びにリンパ球浸潤が認められリンパ上皮共生様所見を呈していた。2）リンパ球浸潤部では UCHL-1T 細胞が多く観察され，特に CD8 陽性Ｔ細胞が上皮下に広く分布していた。リンパ球集簇部では逆に L26陽性Ｂ細胞が優位となり，浸潤中央部には OPD4 陽性Ｔ細胞の増加が認められた。cluster 構成細胞の多くは L26陽性細胞で，UCHL-1 陽性Ｔ細胞は cluster 下層に多く観察された。また OPD4 陽性Ｔ細胞は cluster 上層の破綻部上皮下方に，CD8 陽性細胞は上，下両層に認められた。リンパ濾胞胚中心，濾胞被殻部は殆どが L26陽性Ｂ細胞で，OPD4 陽性Ｔ細胞は濾胞被殻周囲と胚中心明調部に，CD8 陽性Ｔ細胞は暗調部側の濾胞周囲に濾胞を取り囲むように観察された。S-100陽性の抗原提示細胞はリンパ球集簇部と濾胞胚中心に観察された。3）FDC 陽性の濾胞樹状細胞がリンパ球集簇部，濾胞胚中心に認められ，特に胚中心においては接着分子 VCAM-1，VLA-4 の発現も観察された。4）上皮下と線周囲，濾胞胚中心に IgA，IgM 産生細胞が観察された。

【まとめ】 以上著者は慢性副鼻腔炎上顎洞粘膜において，上皮下にリンパ濾胞を高率に認めることを報告した。そして上皮の破壊に端を発し，Ｔ，Ｂリンパ球相互作用のなか，リンパ球が浸潤，集簇，cluster と発達し，FDC の働きでリンパ濾胞となること，また濾胞胚中心の形成には接着分子の作用が重要なことを明らかにした。また形成されたリンパ濾胞が免疫グロブリン産生を誘導し得ることを示唆する所見も認められた。そして粘膜内リンパ濾胞形成の過程，機能の一端を明らかにすることにより，これらが慢性副鼻腔炎病態に重要な意義を持つことを指摘した。

日本耳鼻咽喉科学会会報（Journal of Otolaryngology of Japan）99:1662～1675 1996掲載

Ⅺ．医局通信

１．新入医局員紹介

大　堀　純一郎

自己紹介：鹿児島大学にいる時間は，すでに熊本大学で生活した８年間を超えたような気がします。８年間連れ添ったチェロとも最近は顔を合わすこともありません。しかし，新しい喜びを経験することもできました。臨床での喜び，研究での喜び，ｅｔｃ．を求めてこれからもがんばりたいと思います。宜しくお願いします。

唐　木　敦　子

自己紹介：このたび耳鼻咽喉科に入局させて頂きました唐木敦子です。ポリクリで廻ってきた時以来，耳鼻咽喉科に憧れておりましたので，去年，首尾よくこの鹿児島大学耳鼻咽喉科に入局することができ，大変うれしく思っております。難しいと感じる手技などが多くあり，諸先生方にご迷惑をお掛けする毎日ですが，今後とも御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

下　麦　哲　也

自己紹介：沖縄・琉大から鹿児島に舞い戻ってきました。趣味と言えるかどうかは分かりませんが，学生の頃は，夜な夜な沖縄の峠(?)を攻めたり，夏になると放浪の旅にでたりして楽しんでいました。まだ右も左も分からない状態ですが、今後ともよろしくお願いします。

田　中　紀　充

自己紹介：毎日，目の前の事を処理するのが精一杯で，気付いたら入局して既に１年経とうとしております。時間のかかる私ですが，不器用でも一歩ずつ積み重ねていきたいと思います。今後も御指導よろしくお願いします。

２．医局人事（平成13年４月現在）

教　　授	黒野祐一
助 教 授	松根彰志
講　　師	牛飼雅人，宮之原郁代
助　　手	出口浩二，西元謙吾
	濱崎喜與志，福岩達哉
医　　員	岩坪哲治，森園健介
研 修 医	下麦哲也
大学院生	福山　聡（大阪大学微生物病研究所免疫化学分野）
	高木　実，大堀純一郎，田中紀充

医 局 長	西元謙吾
外来医長	宮之原郁代
病棟医長	出口浩二

関連人事（平成13年４月現在）

国立病院九州循環器病センター	
	（副院長：勝田兼司）
	松崎　勉，林　多聞
国立療養所星塚敬愛園	岩元光明
県立大島病院	河野もと子，積山幸祐
県民健康プラザ　鹿屋医療センター	
	平瀬博之，大城　浩
県立北薩病院	上野員義
鹿児島市立病院	（部　長：鹿島直子）
	唐木敦子
出水市立病院	関　大八郎，吉福孝介
済生会川内病院	島　哲也
かごしま生協病院	江川雅彦，相良ゆかり
藤元早鈴病院	岩下睦郎
あまたつクリニック	新納えり子
今村病院分院	宮之原利男

３．学会報告

第10回日本頭頸部外科学会総会

林　　多　聞

平成12年１月21日から22日の二日間にわたって大分で行われた第10回日本頭頸部外科学会には私を含め５人が演題発表しました。シンポジウムでは皮弁への対策，喉頭部切が興味深くまた，ランチョンセミナーでは村上泰先生が頸部郭清術について講演され，パネルディスカッションでは眼窩吹き抜け骨折についてそれぞれの大学での手術法について学ぶことができ，日常診療にためになる有意義な学会となりました。主催の大分医科大学のご配慮で私たちの発表はすべて初日に終了しており，初日の夜はふぐ料理を心行くまで堪能することができました。学会のもう１つの目的も達成でき鹿児島から長時間かけて出席した甲斐がある２日間となりました。

第12回日本喉頭科学会総会

福　岩　達　哉

平成12年３月16日，17日に久留米大学の主催により喉頭科学会が開催されました。当医局からは私と牛飼先生が演題を出し，参加させて頂きました。私の演題は，当科における喉頭肉芽腫症例の検討であり，術中にレーザー焼灼を併用したほうが治療成績がよかったこと，レーザーの種類では治療成績に差がなかったこと（ＹＡＧとＣＯ２），術後の治療ではステロイド吸入薬とトラニラスト内服の併用を行った群が最も再発率が低かったことの３点を中心に発表しました。

私は，平成12年１月15日から３月15日までの２ヶ月間，癌研究会附属病院頭頸科で短期研修をさせて頂いた関係で，東京からそのまま久留米に行き学会に出席し，その後に鹿児島へ帰ってきました。なかなかあわただしい日程であり，なんとか自分の口演が終わったときにはさすがにほっとしました。

喉頭科学会がきっかけで喉頭肉芽腫症例について調べることとなったのですが，まとまった数の症例を検討した報告はそれほど多くなく，肉芽腫の成因についてもよくわかっていないことが多いようであり，これらのことから今回の検討はそれなりに意義のあるものだったと思います。先日，黒野教授の御提案で喉頭用のＸＰＳドリルを喉頭肉芽腫の治療に使用したのですが，かなり fine な手術が可能であり良好な感触でした。今後適

応を検討しながら使用例を増やしていきたいと思っております。
学会参加報告のはずが，本題からずいぶん離れた内容になってしまいましたが，私の喉頭科学会での思い出話ということでお許しください。

第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会

河　野　もと子

第18回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会は，平成12年３月23日から25日の３日間，石川県金沢市の石川県教育会館で，金沢大学医学部耳鼻咽喉科学教室の担当（会長古川仞教授）によって開催されました。
鹿大からは黒野祐一教授，鮫島篤史先生，そして私の３名が演題を出し，参加しました。演題，演者，共同演者は下記のとおりです。

扁桃におけるケラチン特異的抗体産生
　黒野祐一，岩坪哲治，林　多聞，出口浩二
鼻粘膜血管内皮細胞における NF-κB 活性及び VCAM-1 発現に対する Cetirizine の効果
　鮫島篤史，牛飼雅人，高木　実，宮之原利男，黒野祐一
口蓋扁桃 CD14 陽性細胞のサイトカイン産生能―末梢血単球との比較―
　河野もと子，黒野祐一

本学会は，最近の免疫学の進歩に伴って耳鼻咽喉科に関連する分野でも免疫学的手法や分子生物学的手法による研究が進んできていることを反映して，大変盛りだくさんの学会でした。３日間の学会において，教育研修会（1. 発癌と悪性化の分子機構，2. 免疫システムにおけるケモカイン），サテライトシンポジウム（注目すべき花粉症―その診断と臨床像―），特別講演（小児期免疫能の発達とウイルス感染症の病態），プレランチョンセミナー（アトピー性皮膚炎治療の基本戦略，好酸球性下気道疾患），教育ワークショップ（免疫担当細胞 -Up to Date-，サイトカインと生体防御機構），ミニシンポジウム（1. ウイルス感染と免疫応答，2. アレルギー性炎症の制御）等々，第一線の研究者の方々の講演が目白押しで，大変充実していました。免疫学の進歩，最新の知見についていくのはなかなか難しいことですが，このような機会に勉強できて有意義でした... 多少消化不良ぎみでしたが。できましたら，また参加したいと思います。

第12回日本アレルギー学会春季臨床大会

松　根　彰　志

平成12年４月20日（木）より22日（土）まで，福岡市のシーホークホテル＆リゾートにてアレルギー学会の春季臨床大会が開催され，当教室からは黒野教授以下，私と鮫島先生が参加いたしました。そして，低酸素と血管内皮細胞増殖因子，ケモカインの動態についてや，好酸球侵潤にとって欠かせない血管内皮細胞での接着分子 VCAM の発現と抗アレルギー剤による抑制について発表を行いました。

ところで，アレルギー学会では，耳鼻咽喉科のみならず，内科，小児科，皮膚科等他の診療科の研究内容にも触れることができます。シンポジウムのタイトルを見ても，「アレルギーの疫学－アレルギー疾患の変動と背景因子－」や「21世紀の花粉症対策」に見られるような耳鼻咽喉科領域と直結したものから「アトピー性皮膚炎の治療と管理」，「環境とアレルギー」，「ストレスとアレルギー」，「食物とアレルギー」，「わが国の β_2 刺激薬 MDI と喘息死」，「アレルギー疾患の早期治療介入」，「気道リモデリングの治療は可能か」など他の診療科と直結したものや，診療科の壁を越えた横断的なものまで様々です。ただ，本大会では，秋のアレルギー学会総会とちがい比較的日常臨床と深く関係したテーマや演題の発表，報告が中心となります。

日本耳鼻咽喉科学会の関連学会にも免疫アレルギー学会というものがありますが，耳鼻咽喉科領域での成果やトピックスをどんどん日本アレルギー学会にも持ち込んで重要な役割と影響力を発揮できれば良いと思います。私自身は，アレルギー学会への参加は平成10年からとまだ日も浅く，むしろ以前は一時期炎症学会によく参加しておりました。これまでの副鼻腔炎にかかわってきた経緯と業績をベースに，アレルギー性副鼻腔炎の病態，疫学，臨床研究といった点から本学会に参加していけたらと考えております。

第101回日本耳鼻咽喉科学会総会

積　山　幸　祐

第101回日本耳鼻咽喉科学会総会は去る平成12年５月18日から20日までの日程で東京の明治記念館，明治神宮会舘で行われました。当教室からは黒野教授，松根助教授，出口先生，唐木先生，下麦先生，そして私が参加しました。

宿題報告は，「頭頸部癌の放射線化学療法とその効果増強に感する研究」，「中枢性聴覚障害の基礎と臨床」，シンポジウムが「耳鼻咽喉科における最先端医学－21世紀に向けて－」，「コンピューターはいかに医療を変えたか」，パネルディスカッションが最近

話題のEBMに関する「EBMに基づいた耳鼻咽喉科診療」さらには，招待講演，特別講演，ミレニアムセミナー，イブニングセミナー，臨床セミナー，手術セミナー，教育セミナー，そして一般演題472題と盛りだくさんの構成になっていました。

20世紀最後の日耳鼻総会であり，20世紀の総括と21世紀への展望を入れたテーマであったようです。

個人的には，耳鼻科での最初の全国規模の学会参加でしたが，人の多さに驚きました。発表時は，非常に緊張し，質問にうまく答えられず，勉強不足を反省しました。また立ち見がたくさん出るほどの人気のセミナーもありましたが，話についていけず，さらに勉強不足を痛感しました。

わからないことが多かったが，やる気にさせられた，非常に有意義な学会であったと思います。

第24回日本頭頸部腫瘍学会，第21回頭頸部手術手技研究会

林　　多　聞

第24回日本頭頸部腫瘍学会は癌研究会附属病院頭頸科の主催にて東京国際フォーラムで開催されました。鹿大からは私のほかに西元先生，高木先生が演題発表しました。学会は，頭頸部領域の癌治療について，広く深く発表討論が行われ，他施設での治療法について触れる大変いい機会を与えられたと思います。シンポジウムも多岐にわたって討議され，特に頭頸部癌手術における喉頭機能温存についてのなかで，がんセンターの木股敬裕先生が発表された広範囲舌切除後の再建と，国立京都の永原国彦先生の進行甲状腺癌喉頭気管浸潤例に対する喉頭温存手術は興味深いものでした。学会をとおして，必要十分な手術と機能温存に対する挑戦が各施設で繰り広げられているのを目の当たりにし刺激を受けた３日間でした。

第62回耳鼻咽喉科臨床学会

岩　元　光　明

去る平成12年７月７・８日，福井市に於いて第62回耳鼻咽喉科臨床学会が開催されました。大学からは教授，河野先生そして私が参加し，県立北薩病院からは上野先生が参加されました。福井市はもちろん北陸方面に行ったのも始めてでしたが，一人で行った

こともあってか非常に遠く感じました。食べ物のことはあまり憶えていないのですが，酒は美味しかったように思います。また観光などはしていないのですが，学会場のそばで偶然橋本左内の生誕地を見つけたときは，少し感慨に浸ってしまいました。

学会はさすがに臨床的なことが多く，討論も活発で大変興味深く聴くことができました。ランチョンセミナーの際の弁当が届かないといったハプニングもありましたが，また機会があれば参加したいと思います。

第30回日本耳鼻咽喉科感染症研究会

宮之原　郁　代

平成12年の日本耳鼻咽喉科感染症研究会は，東京都内の都市センターホテルで開催されました。当教室からは，以下の2題を発表いたしました。

低酸素下 LPS 刺激による鼻茸線維芽細胞の VEGF とケモカイン
松根彰志，他

両側扁桃周囲膿瘍の１例
宮之原郁代，他

研究会は，一般演題が26題とシンポジウムは「小児の上気道感染症の現況とその対応」と題して行われました。いずれも，一般臨床で身近に遭遇する疾患に関する報告が多く，感染症が古くて新しい疾患であることが改めて認識されました。今後，感染症を広く炎症という視点でとらえることが，ますます必要になってくると思われました。私にとっては，久々の東京出張で買い物もでき，大変満足でした。

第13回日本口腔咽頭科学会

大　城　　浩

今年度の日本口腔咽頭科学会は平成12年９月８日から10日まで，名古屋市の名古屋クレストンで行われた。

鹿児島大学からは

・アデノイド線維芽細胞における NF-κB の活性化と IL-8 発現（高木）

・当科における高齢者に対する扁桃手術の検討（岩元）
・口蓋扁桃摘出術後に発症顔面頚部皮下気腫の１例（大城）
・グルタミン酸ナトリウムによる全口腔法味覚閾値検査（西元）
４つの演題発表が行われた。
またこの学会の特別企画として，

シンポジウム
「扁桃摘出術の適応と禁忌－EBMによる検討－」
「口腔・咽頭アレルギーの診断と治療－最前線－」の２題

特別講演
「耳鼻咽喉科における最近医療事故」丹羽脩先生
「Clinical updates for obstructive sleep apnea」Katsantonis 先生

そのほかにもランチョンセミナーや，ビデオ手術手技検討会として「口腔・咽頭におけるレーザー及び新機器による手術」「耳下腺手術と顔面神経」，さらに市民講座「21世紀の国民病：いびきおよび睡眠時無呼吸症候群を考える」が行われた。特にビデオ手術手技検討会は興味をそそられた。鼾症および閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対して行われる，LAUP は術後の頭痛が強く，軟口蓋の癒着瘢痕化が起こりやすいが，ハーモニックスカルペルを用いて手術を行う様子や，その他の Hot knife を用いた手術の様子がビデオにて紹介された。また耳下腺手術における顔面神経への到達法や，鑷子，剪刀，電気メスを用いる方法が紹介された。

口腔咽頭領域における新しい手術方法や治療方法などが紹介され，症例報告がなされるなど大変有意義な学会であった。

第39回日本鼻科学会総会

吉　福　孝　介

日本鼻科学会が，平成12年９月下旬に金沢市で開催された。

当教室からは，黒野教授，松根助教授，出口病棟医長，岩元助手先生，大堀先生，田中先生，そして私吉福が参加させて頂きました。鹿児島からは非常に交通の便が悪く，飛行機および特急列車を乗り継ぎ約８時間くらいかかってしまいました。金沢に到着してみると鹿児島と比べると非常に寒かった印象がありました。あまりにさむく夏用のファッションで臨んだ私は金沢の老舗で（購入する時には知らなかったがスナックの娘が言っていた）ジャケットを購入し学会に出席した。一日目のセミナーが終了し懇親会に出席した後，我々は，大山先生とご一緒に大変見晴らしの良い空港ホテルの最上階で二次会

をさせて頂いた。

２日目は，自分は嗅覚についての発表をした。なかなか満足いく発表ができたと思われた。

学会前自分としては，発表の終わった日はハジケル（with 一年目）つもりであったのだが，10月より出水への出向が決定しており発表が終わるとすぐさま鹿児島に帰り病棟の仕事を終えて引越しの準備に追われた。今回の学会ではハジケられず終わってしまい非常に残念であったが，いつの日か今回の学会でハジケられなかった分ハジケようと（with 一年目）思います。

第10回日本耳科学会総会

高　木　　実

去る平成12年10月19～21日の３日間浜松市で第10回日本耳科学会行われました。学会は一般演題・ポスター発表合わせて303題，特別講演３題，ランチョンセミナー５題，シンポジウムなど私にとって最大の学会であり，抄録集を見返すたびに何処の会場に行くべきか，苦悩の連続でした。当教室からは黒野教授をはじめ・宮之原郁代先生・私，高木の４人で参加させていただきました。牛飼先生が「小児急性中耳炎に対する初期治療についての検討」，宮之原先生が「中耳に発生した神経内分泌腫瘍の１症例」，高木が「特異な経過を呈したムンプス難聴」についての演題を出させていただきました。私は緊張の連続で何を話しているのか自分でも解らなくなってしまいました。また自分の発表時間と宮之原先生との発表時間が重なったために，牛飼先生は自分の発表の共同演者でもないのに，わざわざ会場に来ていただいて，発表を見守ってくれました。後から質問に対する返答の仕方についてノウハウを御教授していただき，有り難く思いました。その牛飼先生の演題と和歌山県立医科大，山中教授のランチョンセミナー「急性中耳炎に対する CDC のガイドラインについて－日本国内での適応を考える－」と酷似しており，山中先生から厳しい質問を受けるにも関わらず，難なく返答しており，さすがだと感じ入りました。

浜松市はさほど大きくなく，アフター５もあまり楽しめず，その代わりホテルのラウンジで教授を囲んでワインを飲みながら，いろいろな話を聞く事ができ充実した時間を過ごすことができました。ささすがに本場だけあって鰻はうまかったです。また次回このような大規模学会に参加してみたいものです。

第52回日本気管食道科学会総会

西　元　謙　吾

平成12年11月16日より17日までの２日間，第52回気管食道科学会が広島で開催されました。当教室からは，黒野教授，林先生と私が参加しました。私はこの学会は今回が初参加だったのですが，まず印象に残ったのは，耳鼻咽喉科医だけでなく，食道外科医，放射線科医，呼吸器外科・内科医などと，多岐にわたる領域の先生が参加されていたことです。特に，私たちが発表させていただいた演題は２つとも食道に関係する領域だったので，同じセッションではむしろ食道外科の先生が多く，非常に緊張しました。しかし，消化器外科の先生の立場から見た発表を聞くことができ，新たな刺激を受けた思いでした。我々の発表は，私が頭頸部悪性腫瘍と食道癌の重複について，林先生が局所皮弁による食道再建についての演題で，一応無事二人とも発表を終えることができました。しかし，私の発表でとんでもないハプニングが発生しました。携帯をマナーモードにしておいたのですが，なぜかスライド１枚目の時に携帯が鳴り出すではないですか！（しかもエレクトリカル・パレードのテーマ）これにはさすがに舞い上がりまして，携帯を窓があったら投げ捨てたい思いに駆られました。今回の反省：携帯は自分の発表の時は電源オフ。

広島の初日の夜は，かなり遅かったため，お好み焼きの集合住宅のような所に行きました（味はまずまず）。２日目には，昼食にもかかわらず，牡蠣の会席料理を頂きました（ただ単に間違えて入っただけですが）。一度牡蠣にあたったことのある私にとって，牡蠣の生食はかなりの冒険でしたが，幸い何事もなく，広島の名物を存分に楽しみました。

第５回アジア鼻科学シンポジウム（タイ・バンコク）

出　口　浩　二

今回，１月26日から１月31日の日程でタイの首都，バンコクで開催されました第５回アジア鼻科学シンポジウムが開催され，黒野教授，西元先生，私の３人で出席させていただきました。

私は以前にも同じ地で行われた別の学会に出席させていただいたことがあり，その時のバンコクの印象が脳裏に若干残っており，今回の印象も交えて感想を述べさせていただきたいと思います。

(1) 暑さ・・・

今回，冬の鹿児島からタイの地へ足を踏み入れたのですが，当然日中は鹿児島の夏です。ただ，前回は11月でしたのでこの時とすると，日が暮れたあとの外気は過ごしやすかったです。ちなみに湿度は二回とも高くなくカラッとした雰囲気でした。

(2) 道路・交通事情・・・

今回宿泊したホテルのすぐ近くをモノレールが走っていました。以前建設中であったかどうか定かでありませんが，今回バンコクを訪れた中で目をひきました。ただ，地上の交通事情は相変わらず悪く，いつバイクや自転車，小型車両と自分たちが乗っている車が接触するのではないかと心配させられました。1000万人を越す人口を抱えた大都市の課題だと思いますが，場所によってはかなり無秩序に車が流れているようで，車の免許を持っていても，バンコク市内を運転するのはかなり難しい印象です。

(3) 国民性・治安・・・

以前訪れたとき，初めての地と言うこともあり治安がどうなっているのかと言うことが非常に気がかりでしたが，その時まず思ったのが，比較的安全な所ということでした。また，例外もあるとは思いますが，住んでいる人の雰囲気もフレンドリーで，それほどこちらが警戒心を持たなくてすむという点は今回も変わらなかったと思います。一つには国王中心，仏教中心という社会構造があるのかもしれません。

(4) 物価・・・

リゾート地は別ですが，バンコクで飲んだり食ったりした印象では以前と変わらず，物価が安いと言うことです。今回日本で充電した電気カミソリが，タイへ着くとすべて放電していたというトラブルにあい，近くのコンビニで使い捨てのカミソリを買いました。このとき，食べ物もいくつか買いましたが日本の1/3程度の値段で，アルコールについては地元のビールであれば炭酸飲料と変わらない値段でした。ただチョコレート類は質が落ちるようで，味がだいぶ異なり日本のチョコレートのおいしさを実感しました。ちなみに今回はグリコのアーモンドチョコレートを買ってみました。

(5) 街並み・・・

観光地を中心にしか回っていないこともあるとは思いますが，基本的には数年前と変わっていないと思います。今回も前回感じた日本の都会の懐かしい風景があったような気がします。抽象的な言い方で申し訳ありません。

以上のような感想を抱きながら，自分の発表を終え英語力は stationary だなと思ったのが自分の自分に対する率直な感想でした。そして次の移動地プーケットで第２のノルマを暑さの中，走り回ってこなし寒い鹿児島へと帰ってきました。

最後にバンコクへ到着した夜，街を案内していただいたスーントン先生御夫妻にあらためて深く感謝したいと思います。

第18回ヨーロッパ鼻科学会，第19回国際鼻感染アレルギーシンポジウム (ERS & ISIAN in Barcelona)

松　根　彰　志

６月25日から29日まで，スペインのバルセロナで開かれた Europian Rhinology Society (ERS) と International Symposium on Infectious and Allergy of the Nose (ISIAN) の合同学会に，黒野祐一教授，宮之原郁代先生と私の３人で参加しました。バルセロナは，オリンピックの開催でとても有名になりました。宮之原先生は，当地訪問は新婚旅行以来２回目だったそうですが，私は今回が初めてでした。Airline は，当初エールフランスでパリ経由の予定でしたが，ちょうどスト騒ぎにぶつかり，急遽全日空でロンドン経由でバルセロナ入りすることとなりました。私は，個人的に過去２回とも，詳細は省略しますが，ヨーロッパの学会では痛い目にあっておりこの突然の Airline の変更は何か不吉なものを予感させられました。

黒野教授，宮之原先生は，それぞれ Effect of clarithromycin on cultured human nasal epithelial cells and fibloblasts. と Influence of *H. influenzae* infection on clinical prognosis in 43 patients with chronic sinusitis. の演題名で発表されました。私は，低酸素や菌体成分の刺激による血管内皮細胞増殖因子やケモカインの産生について培養線維芽細胞を用いたデータで口演を行いました。これは，副鼻腔炎の病態を前提とした研究内容ですが，発表後フロアーからいくつかの質問があり，中でも手術症例で副鼻腔内の低酸素を示した点について，その時の NO（一酸化窒素）はどうかとの質問が大変印象に残っており，昨年年末より準備も整い術中に測定を開始しています。同じセッションの演題数は私を入れて11演題でしたが，日本人では三重大学の原田先生，日本医科大学の野中先生がおられました。また，お二人の座長のうち１人は，延世大学の I.Y.Park 先生でした。他にも，日本の大学から多数参加しておられました。本学会の直後ニースで真珠腫の学会もあったようでこちらに回られた先生もおられたようでした。また，お馴染みのロシアのコズロフ先生一行やフィンランドのマルクス先生一行ともお会いし大いに盛り上がりました。ただ，コズロフ先生はヤロスラブリでの本会の主催を控えておられ，我々もいろいろ心配しているところですが，御本人は尚一層のプレッシャーを感じておられるようでした。

発表の合間をぬって３名で市内観光や食事にも出かけました。オリンピック関連施設や聖家族教会（Sagrada Familia）（図１-a，b）に代表される建築家 Antoni Gaudi による一風変わった建造物を観光バスで見て回りました。個人的には，ピカソが若い頃に滞在したときの作品，特にデッサン類がめずらしく印象的でした。

学会終了後は，パリ経由で帰国しました。パリで時間が少しあったので，10年以上ぶりにルーブル美術館にも行ってみました。相変わらずモナリザの前は大変な人だかりで，施設も改装されとても立派になっておりましたが，すぐ近くにあるオルセー美術館の方が18世紀以後の作品が中心で，コンパクトで見やすく感じました。エッフェル塔から見

図 1 -a

図 1 -b

図 2

図３－a

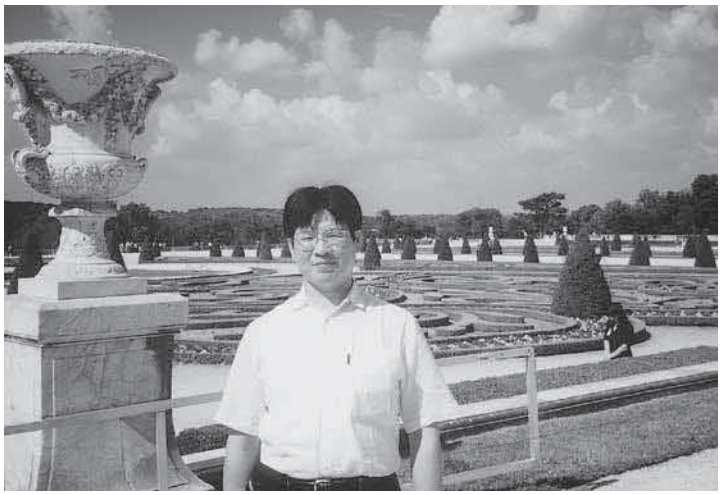


図３－b

たモンマルトル，セーヌ川そしてコンコルド広場からシャンゼリゼ，凱旋門とおきまりではあっても，やはり見ないではおれないパリの景色をしっかり見て参りました。ムーランルージュ（図２）についてはバッサリ割愛させていただきます。全般的に黒野教授の事前のアレンジのおかげで，限られた時間で実に能率良くいろいろ見ることができました。

出発時のスト騒ぎは少しいやな感じでしたが，バルセロナ滞在中途中一日疲れのため夕食にも出ずに部屋で休憩した以外は，さほど大きなトラブルも無く，「これでヨーロッパも大丈夫」と意を強くしました。これは，私にとって大きな収穫でした。

注　図３-a,b　ベルサイユ宮殿

国際耳鼻咽喉科会議
(“Consensus Conference on Nasal Polyposis” in Siena, Italy)

牛　飼　雅　人

平成12年10月５日から10月７日まで，イタリアのシエナで行われた「鼻ポリープにおけるコンセンサスカンファレンス」に，黒野教授，高木先生と私の３人で参加しました。学会では黒野教授が，副鼻腔の低酸素状態が鼻ポリープ増生因子となる可能性について鼻ポリープ由来培養線維芽細胞の低酸素下での血管増生因子やサイトカインの発現を中心に発表し，高木先生が鼻粘膜由来細胞のサイトカイン発現と NF-kB 活性化との関連について発表しました。また私が，カルボシステインのムチン遺伝子発現に与える影響についての発表を行いました。さて私にとってイタリアでの学会発表は今回が初めてだったのですが，幾つか戸惑うことがありました。私の発表は第２会場で小さな会場だったのですが，発表当日その会場をみて驚きました。まず，スライドを映すスクリーンがなく白い壁に直接スライドを写しているではありませんか。おまけに，マイクがなく原稿台もなく，当然原稿を照らす照明もありませんでした（会場は真っ暗にもかかわらず）。ちょっとどうしようと思いましたが私の直前に発表した黒野教授が会場の照明を少し明るくするよう要請したため，私の発表の時には原稿を見る明るさがあり，無事発表を終えることが出来ました。日本やアメリカではちょっと考えられない事ですが，イタリアではそんなものの様です。学会の最終日には，ワインで有名な Montalcino（モンタルチーノ）の wine cave への tour と言ういかにも黒野教授好みの企画があって，これに参加しました。wine cave では，年代物のワインが安く買い放題ではないかとの期待が高まりましたが，残念ながらワインの試飲が出来るだけ（有料）でちょっとがっかりでした。それでも，トスカーナ地方の美しい景色を堪能することが出来て満足でした。

イタリア滞在中は毎晩イタリアワインとイタリア料理を楽しんだ訳ですが，観光客の少ない小さな町へ行くほどワインも料理もおいしい様です。最終日は，フィレンチェ空港そばの小さな町に泊まりましたが，そこで飛び込みで入ったレストランの料理やワインは，ヴェネチアの有名レストランよりもはるかに安い値段でしたが，味ははるかに上でした。というわけで，イタリア最後の夜はワインをたらふく飲んで締めくくりました。

４．関連病院便り

国立病院九州循環器病センター便り

松崎　勉・濱崎喜與志

平成12年7月１日，国立病院九州循環器病センターとして開院しました。これは，国立病院・診療所の統廃合に伴い，国立南九州中央病院と国立療養所霧島病院を統合して発足したものです。これを契機に，国が進める政策医療のなかで，「循環器病」に関する基幹医療施設，「がん」に関する専門医療施設，エイズ拠点病院として機能付けされた医療を行うことが求められています。耳鼻咽喉科に関しましては，基本的には国立南九州中央病院で行ってきた医療を継続して提供できるようにしており，耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の疾患を対象に診療しています。今後は，更に「頭頸部がん」に関して専門的医療の提供，循環器疾患合併症例の手術治療を積極的に行うことが求められてくるものと思います。

ところで，平成12年は，勝田兼司副院長，松崎，濱崎先生で診療を行ってきました。診療形態が，入院・手術に重きを置いている関係上，入院患者が約32名（１日平均），年間手術件数が500例超という状態です。機能付けされた政策医療の面では，「がん」の診療を手術症例でみると，上顎癌２例，舌・口腔底癌10例（大胸筋皮弁再建１例，腹直筋皮弁５例，部切５例），頬粘膜癌１例（前腕皮弁再建），中咽頭癌５例（腹直筋皮弁２例，前腕皮弁１例，局所粘膜弁２例），下咽頭癌10例（空腸再建６例，大胸筋皮弁２例，胃管１例，部切１例），喉頭癌８例（全摘５例―内１例前腕再建，水平部切３例），甲状腺癌６例，耳下腺癌２例，頸部悪性腫瘍（頸部郭清術を含む）11例となっています。再建手術も積極的に行っており，その際には，大学医局より応援を頂いており，国立病院の果たすべき医療をある程度実現できていると感謝しています。そのほか，県内の医療機関との連携の元に病診連携の実現に力を入れているところです。

また，がん診療において緩和医療を終末期のみならず初期治療の段階から積極的に行っており，これには病棟の看護婦さんなどスタッフの力が大きいところです。スタッフも積極的に緩和医療の講演会，学会に参加しており，医療レベルの向上を図っており，患者さんの立場に立った医療の実現に努力しています。こういう環境のなかで仕事をできることが当院で診療を行う大きな支えになっています。

今後更に求められる医療の質は，高くなっていくものと思いますが，このような環境の中で，地域の先生方や同門会の先生方のご協力を頂きながら，理想とする医療の実現できる施設となっていくよう努めて行きたいと思っているところです。

（文責:松崎）

県立大島病院便り

河野もと子・杉原純次

私（杉原）が奄美に赴任し１年４ヵ月となりました。私が担当する県立大島病院便りも２回目となり，前回は病院の概要，巡回診療，奄美の道路交通事情等について書きましたので今回はその後の news を思いつくまま挙げてみたいと思います。

（１）H12，11月３日から２日間，病院創立100周年行事が行われ祝辞，演奏会，原口泉先生の講演会等があり，祝賀会，スナツクを貸しきっての２次会と盛況でした。

（２）H11年度はついに病院の経営収支は赤字となり経営改善のため毎朝入院患者数，病床利用率，平均在院日数等の記載された医事課長手づくりの報告書が各 Dr あてに届きます。

（３）H12，11月患者を間違えて輸血するという信じられない医療事故があり院長，副院長，総看護婦長，脳外部長，透析部長，事務長一同がテレビに出て深謝したのを御記憶の方も多いと思います。現在病院を挙げて事故防止マニュアルの作成及びその徹底に取り組んでいるところです。皆さん，ハット-ヒアリー syndrome という造語があるのを御存知ですか？

（４）H12，12月某日，屋仁川（名瀬市の飲食街）で２名の方が死亡された殺人事件がありました。うち一名は当院で亡くなられました。年末年始は喧嘩による顔面外傷が多く入院になる症例もありました。

（５）H12年の忘年会は医療事故のため全て中止となり早々と忘年会の演劇の練習をしていた人達は発表の場を失い大変落胆していました。忘年会の中止が飲食店に及ぼす経済効果を計算した暇な人がいてそれによると約4000万円の損失だそうです。忘年会の中止のおかげで新年会の件数が増えそうです。

（文責：杉原）

県 立 北 薩 病 院 便 り

上野員義・大城　浩

伊佐郡は農業畜産が盛んに行われており，夕方になると近くの農場からにおいが流れてきます。そんな北薩病院は大口市の山の中にあります。梅雨の季節にはカエルの鳴き声が聞こえ，夏は盆地で暑く，冬は鹿児島の北海道といわれるほど寒いところです。大口市内には松崎医院，宮之城には医師会病院がありますが，入院施設を持つ耳鼻科は周辺になく，北薩の中心的な病院となっています。また宮崎県のえびの市からも患者さんが来られます。

現在の診療は，午前中に外来をみて，月曜と金曜の午後はアレルギー外来になっています。火曜日は検査日，水曜日に外来手術，木曜日には鹿児島大学麻酔科から応援を頂いて全麻手術を行っています。手術症例は扁摘やESSなどの通常疾患が主になっていますが，甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍などの手術も行っています。木曜日以外や緊急手術などは外科の先生方に麻酔をかけて行っています。麻酔科医の常勤が望まれるのですが。

仕事以外のことになりますとほぼ2ヶ月に1回，宮人会と呼ばれるゴルフコンペがあり，テニスコートもありますので夕方からはテニスをしています。またランニングが盛んで，多くの医師，職員が指宿菜の花マラソンや宮崎の青島太平洋マラソンなどの大会に出場しています。

鹿児島市から遠く，いろいろ不便なことも多い北薩病院勤務ですが，楽しいことも多い北薩病院勤務です。

（文責：大城）

県　立　鹿　屋　病　院　便　り
（現　県民健康プラザ鹿屋医療センター）

平瀬博之・森園健介

皆さん，いかがお過ごしでしょうか。

平成12年4月から県立鹿屋病院で勤務している森園です。僕が県立鹿屋病院に勤務するようになり，早くも1年が経過しようとしています。

この1年間でもっとも大きな出来事としては，やはり県立鹿屋病院が鹿屋市札元の新病院へ移転したことです。病院の引越しに立ち会う機会というのはあまり無いので，非常にめずらしい経験をさせてもらいました。

さらに平成13年4月からは病院の名称まで変わります。新しい名称は，県民健康プラザ鹿屋医療センターと言います。

新病院に移り，いろいろとこれまでとは変わった点も多いです。良い点も悪い点もあるのですが，いくつかその代表的な点を挙げます。

＜悪い点＞

①外来が狭いです。看護実習の学生さんにも「患者さん同士が近すぎて，プライバシーが守られていない気がする。」と辛辣なご意見をいただきました。

②病室が狭いです。２人部屋があるのですが，奥のベッドの患者さんをオペ出しするときには手前のベッドを１度廊下に出さないといけません。

③病床数が減りました。今回の新病院移転に伴い脳神経外科，循環器内科が新設されたのですが，その影響で従来あった各科の病床が一部削減されました。その結果，部長先生はいつも病床の運用に頭を悩ませることになりました。

④原則的に全館禁煙になりました。これは喫煙をされる先生がたにとっては重要な問題なので…。外来の中庭でしゃがんでタバコをふかす先生がたの姿は，校舎裏で先生に隠れてタバコをふかす不良学生のようだと外来の看護婦さん達はもっぱらうわさしております。

⑤新病院移転に伴いＭＲＩが導入されたのですが…。どうも検査技師さんが足りないみたいで，耳鼻科の確保できる枠は今のところ週に１回程度しかありません。

⑥眼科が諸事情により閉鎖しました。実際非常に困っています。

＜良い点＞

①病院が非常にきれいになりました。部屋が狭いなどのいくつかのマイナス点を引いても，充分プラスだと思います。患者さん方にももちろん好評です。

②PHS が導入され，各 Dr やさまざまなセクションの代表に１人１台ずつ配備されました。自分の話したいところへすぐにダイレクトで連絡が取れるので，非常に重宝します。ただ，あまりつながってほしくないときにも突然鳴り出すことがあるのが悩みのたねです。（トイレの中とか…）

などといろいろ書いてきましたが，このような新しい病院で多くの症例を学ぶことができ，非常にラッキーだったと思います。ここでの経験が今後に生かせるようさらに励んでいきたいと思います。

（文責：森園）

鹿児島市立病院便り

積　山　幸　祐

Ｈ12年２月１日からH13年３月まで，専門研修医として勉強させていただきました。まだ右も左もよくわからない初日から，中咽頭 Ca. の肺，頚部メタの患者が救急車で運

ばれてきて，慌てふためき，翌日には，まだ扁摘もろくにできなかった私が甲状腺 Ca. の術者をさせていただき，この２日間の出来事は，これから始まる市立病院の忙しいけれども，充実した研修の日々を予感させるものがありました。

市立病院は，外来，入院，急患，手術件数ともに多く，バラエティに富み，非常にいい臨床経験ができました。頚部郭清術や再建術を要するような頭頸部領域の手術も多く，第一助手として手術に入ることができ（他に人がいないので。どうしても人が足りないときは他科の研修医の先生に助手をお願いしているようでした。）これが非常に勉強になったと思います。また，多忙のなか，扁摘にはじまり気管切開，鼻中隔矯正，ガマ腫摘出，耳下腺腫瘍摘出，顎下腺摘出，甲状腺切除，喉摘，ESS，顔面神経減荷術等に至るまで，御指導していただいた鹿島先生，花牟礼先生，笠野先生に心から感謝しています。おかげで非常に充実した研修生活が送れました。この場を借りて御礼申し上げます。

1999年１月から12月まで１年間の市立病院の手術症例，及び私が経験した市立病院ならではの珍しいケースを簡単に報告します。

H12.１月～12月の手術件数520例
大まかな内訳として

・耳：鼓室形成術　80例
　　鼓膜形成術　９例
　　先天性耳瘻孔　５例
　　外リンパ瘻　３例
・鼻：内視鏡下鼻内副鼻腔手術　80例
　　上顎悪性手術　３例
　　鼻中隔矯正術+下甲介切除術　12例

・頭頚部：悪性腫瘍手術で再建術を行ったもの
　　中咽頭　７例
　　下咽頭　５例
　　舌，口腔底　４例

　　舌，口腔底再建なし　４例
　　喉頭　喉頭全摘　３例
　　喉頭部切　１例
　　MLS　51例
　　甲状腺　甲状線全摘　３例
　　甲状腺半切　15例
　　耳下腺　21例
　　扁摘　82例

私が経験した市立病院ならではの珍しいケース１

：１月２日早朝に，呼吸困難の患者が送管され，種子島からヘリで搬送されてきた。急性喉頭蓋炎が疑われ（否定できなかった），主治医になり ICU に通いつめた。ハードな年始であった。結局は，痙攣が出現し破傷風の診断で外科に転科となり２ヶ月半後に退院した。

ケース２：喉頭 Ca. による気道閉塞で心肺停止になり救急車で来院。緊急気管切開と麻酔科のサポートにより救命できたが，結局は植物状態となり約２ヶ月後に転院となった患者。

ケース３：突発性難聴の患者で高圧酸素，ステロイド等で治療していた患者が，土曜日の午後から熱発し（40℃），腹痛を訴え，緊急で採血したところ肝機能の異常な上昇と強い炎症所見を認め，強力に抗生剤を使用し，γ-グロブリン製剤を使用したが，月曜日には pre-DIC 状態になった患者。急性化膿性胆管炎であった。

ケース４：同じく突発性難聴の患者で，入院したその日の夜（金曜日）にアポった患者

ケース５：副鼻腔炎からの頭蓋内合併症例２例（脳膿瘍，硬膜下膿瘍）

ケース６：両側外リンパ瘻の患者

Letter　from　IZUMI

関　大八郎・吉福　孝介

平成12年10月から再び出水市立病院にて勤務する事となった吉福です。

教授から９月に移動の事を言われたときには別れが辛く悲しかったでしたが，いざ再びこの病院にきたら待遇の良さにビックリしてしまいました。前回自分は研修医で平瀬先生の元で大変お世話になりました。今回は関先生の元でいろいろと勉強させて頂いております。前回の“さくらじま”で家の近さについて述べましたが今回は病院から家までは30メートルぐらいなので前回と比べると安眠できて非常に良いです。また，家のつくりも良く満足しております。仕事の方も自分としてはやりやすくさせて頂いておりまして非常に満足しております。ただ仕事および待遇については，言う事なしと思っておりますが人間とは欲望の塊で現状では満足せず刺激を求めるようになると思われます。仕事が終わると部長と共に刺激を求めサマヨッテおりますが出水にはなかなか刺激がなくショウガナイので２人で勉強しております。関部長と共に頑張ってサンクチュアリー（注１）を築こうと思っております。これから寒いシーズンに入りますが心は暖かく仕事および私生活に頑張ろうと思います。

（注１）　聖域

（文責：吉福）

済生会川内病院便り

島　哲也・岩坪哲治

私が川内に来て10ヶ月が過ぎました。

あまりに楽しく過ごしてしまったせいか，まさにあっという間に過ぎてしまったという気がします。

とりあえず，実際の勤務内容についてふれたいと思います。

月曜日から土曜日までの午前中と月曜日，金曜日の午後は外来診療を行ない火曜日，水曜日の午後は手術，水曜日の午後は補聴器相談やＡＢＲなどの諸検査を行なっております。

外来においては患者さんを最初から経過をおいながら診させていただけるのでコミュニケーションもうまくいくことが多く新鮮な気持ちで仕事をすることができ非常に良い経験となりました。手術においても通常疾患を数多くさせていただき貴重で楽しい経験をすることができました。耳鼻科医として初めて二次病院に赴任した私にとっては何もかもが新鮮でまさにあっという間の10ヶ月でした。

夏の花火大会，大綱引きやその他もろもろ公私ともに充実した日々を過ごさせていただいております。

このような施設にせっかく赴任させていただいておりますので一人一人の症例について良く考え納得いく研修をしていきたいと思います。

（文責：岩坪）

生協病院だより

江川雅彦・相良ゆかり

私が生協病院に赴任して早１年が経とうとしています。

日々の外来診療の中で気付いたことが３つ程あります。

①こどもの処置は手際よく

皆さんもご存知の通り，生協病院では外来患者さんの70％が小学生以下のこどもたちのため，特に幼稚園児，小学生低学年のこどもの処置には頭を悩ませることが多いのです。時間をかければかける程，こどもたちは嫌がり，泣き叫び，介助する看護婦さんの騒音性難聴を招きます。私も処置直後に耳鳴りを何度か体験したことがありますが，今のところ難聴にまでには至ってないようです。

②お母さんに納得のいく説明を
最近の若いお母さんたちは勉強家でいろいろな事を知っています。
矢継早に質問が飛んできます。こちらがたじたじになる程いろんな質問が飛んできて説明を求められることも少なくありません。
③キャラクターものの勉強を
こどもたちとの会話の中では，やはり最新のテレビ番組やキャラクターに強くなければ，コミュニケーションをとることが難しくなってしまうことがあります。最近やっとはやりのキャラクターの名前を覚えた！！と思ったら，もう次の新作がでていたりして，ここでも勉強不足を思い知らされることが多々あります。

やはり患者さんの多くはこどもたちなので，何かと仲良く，局所を診せてもらえるようになだめすかして，スムーズに診療をすすめていけるように努力が必要です。
月曜日から土曜日まで忙しい外来診療の合間をぬってOpeを組んでいくので長期休暇の間はてんてこ舞いです。そんな忙しい生協病院でのリズムに乗れないままに（？）一年が過ぎようとしています。
部長の江川先生にかなりしわ寄せがいっていると思いますが，リズムに乗り損ねないよう頑張っていきたいと思います。

（文責：相良）

今村病院分院便り

宮之原　利　男

今村病院分院では救急外来に対応するため施設増築を行っており，平成13年６月頃に完成予定である。それに伴い，当科の外来診察室は完成後の新棟に移動することになっている。現在の診察室はもともと内視鏡室であったため診察室の出入口と診察ユニットの位置関係が悪く，不満であったがこれで解消されそうだ。しかし診察室が聴検・エコー室からかなり離れてしまう。検査のための移動時間が少し長くなりそうだが，聴検室の移動ができないため仕方ない。
さて，当院赴任から１年以上経過したが，診療室にiMacを傍らに置き患者への説明に利用するようになった。これは去年の日耳鼻学会の参加がきっかけとなった。当学会の医療機器展示を巡るとデジタル画像管理のデモが盛んに行われていた。同じようなシステムができないかと考えた結果，iMacと付属ソフトを使って内視鏡所見を動画として取り込みいつでも患者へ供覧できるようにした。幸い，その頃から大容量のハードディスクが安くなり動画ファイル容量に十分対応できたため，診察中はなるべく内視鏡を利用して説明し，診療後にハードディスクに動画を収集していった。その結果，各疾患の

経過，術前・術後所見，術中所見など多くの症例をデジタル動画として収録した。治療後の患者に対して治療前後の過程を動画でまとめて説明し，または未治療の患者に対しても治療の説明のため利用している。特に扁摘やＥＳＳの術前説明時に患者の理解を得るのに有効である。また処置に対し泣きそうになっている小児に対して動画で模範例をみせると頑張ってくれることもある。いろいろな診療場面で活用できるが，これもパソコンの高性能・低価格化によるものである。

昨年は社労士の資格試験に挑戦したり，レセプト講習会を受講するなどして社会保険について少しでも知識をつけるよう努めた。新年度は本業の技量向上を目的に新たな臨床研修ができたらと思う。

XII. 関連病院（平成13年４月現在）

病　院　名	郵便番号	住所（TEL・FAX）	外来診療曜日	手術曜日
国立病院九州循環器病センター	892-0853	鹿児島市城山町８－１ TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30～11:30)	月～金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町４２０４ TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	木・金 (8:30～17:00)	
県立大島病院	894-0015	名瀬市真名津町18－１ TEL:0997-52-3611 FAX:0997-53-9017	月～金 (8:30～10:00)	火･木･金
県立北薩病院	895-2526	大口市宮人５０２－４ TEL:0995-22-8511 FAX:0995-22-6783	月～金 (8:30～11:00)	水・木
県民健康プラザ 鹿屋医療センター	893-0011	鹿屋市打馬１－５－10 TEL:0994-42-5101 FAX:0994-44-3944	月･火･水･金 (8:30～10:30)	月の午後 木
鹿児島市立病院	892-8580	鹿児島市加治屋町20-17 TEL:099-224-2101 FAX:099-223-3190	新患 月･水･金 再診 火・木 (8:30～11:00)	月･水･金
出水市立病院	899-0131	出水市明神町520 TEL:0996-67-1611 FAX:0996-67-1661	月～金 (8:30～11:00) 木のみ（再診） (14:00～16:00)	火･水･金

病　院　名	郵便番号	住所（TEL・FAX）	外来診療曜日	手術曜日
済生会川内病院	895-0074	川内市原田町 2－46 TEL:0996-23-5221 FAX:0996-23-9797	月～土 (8:00～11:00) 月･金のみ(再診) (14:00～16:30) 水の午後 第1･第3 特殊検査 第2･第4 補聴器外来 (14:00～16:30)	火･木の午後
かごしま生協病院	891-0144	鹿児島市下福元町83-4 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月･火･木･金 (8:30～17:30) 水・土 (8:30～12:30) (新患は30分前まで)	火･水･木 の午前
今村病院分院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	月･水･木･金 (8:30～17:10) 土 (8:30～11:30)	
藤元早鈴病院	885-0055	都城市早鈴町17－１ TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月･水･･木･金 (9:00～17:00) 火 (9:00～11:00)	火の午後
市比野記念病院	895-1203	薩摩郡樋脇町市比野3079 TEL:0996-38-1200 FAX:0996-38-0715	火・木 (14:00～18:00) 土 (9:00～18:00)	

病　院　名	郵便番号	住所（TEL・FAX）	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ケ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・水・金 (9:00～18:00) 火 (14:00～18:00) 土 (9:00～13:00)	火の午前
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町１－140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	火・木 (13:30～16:00) 土 (8:30～11:30)	
加治木温泉病院	899-5241	姶良郡加治木町木田字松原添4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	月・火・木 (13:30～16:30) 土 (8:30～11:30)	
田上病院	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00～17:30) 水 夏(14:00～17:00) 冬(14:00～16:20)	
阿久根市民病院	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30～15:30)	

病　　院　　名	郵便番号	住所（TEL・FAX）	外来診療曜日	手術曜日
鮫島病院	891-0406	指宿市湯の浜1-11-29 TEL:0993-22-3079 FAX:0993-22-3019	火・木 (8:30～17:30) 水(13:30～17:30) 土(8:30～12:00)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	第１・第３ 金(8:00～16:00) 土(8:00～10:00)	
豊永耳鼻咽喉科	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第２・第４ 土(9:30～15:00)	